

名取市歴史民俗資料館年報

— 令和4年度 —



2023年11月

名取市歴史民俗資料館

名取市歴史民俗資料館年報

— 令和4年度 —



2023年11月

名取市歴史民俗資料館

目次

I. 施設の目的	1
1. 施設の目的	1
II. 事業概要	1
1. 事業概要と利用状況	1
(1) 令和4年度の事業概要	1
(2) 利用状況	2
(3) 令和5年度 of 主な事業計画	3
2. 展示・公開	5
(1) 常設展示	5
(2) 企画展示	7
(3) 名取市図書館情報発信コーナー	9
3. 学習・交流活動	9
(1) 歴史スポットめぐり	9
(2) 資料館まつり	11
(3) 歴史講座	12
(4) 講演会	12
(5) 各種案内・マナビィ出前講座・展示解説案内	12
(6) ボランティア（れきみんの会）	14
(7) 市内小学6年生（義務教育学校6年生）の訪問学習	15
4. 体験学習活動	16
5. 調査・研究活動	18
6. 資料管理・利用	18
7. 刊行物	19
III. 資料	19
1. 施設概要	19
2. 組織・職員体制	21
3. 予算	21
4. 条例・規則	21
5. 沿革	24
IV. 調査・研究報告	25
1. 名取市飯野坂遺跡採集の弥生土器（1）	25

I. 施設の目的

1. 施設の目的

名取市歴史民俗資料館は、約2万年にわたる長い歴史の中で蓄積され、大切に受け継がれてきた歴史文化を、保存・活用するための拠点として整備されました。それらは郷土の歴史や成り立ち、先人たちの営みを知る上で欠かすことの出来ない国民共有の財産であり、永く後世へ受け継いでいく必要があります。当資料館では、この大きな目標の達成に向けて、以下の様な目的を持った活動を行っていきます。

- 1) 展示や歴史的な体験活動を通して、名取の歴史文化に触れる機会を提供します。
- 2) (郷土の歴史文化に関わる) 歴史的な体験などを通じて、歴史文化への興味関心を高めます。
- 3) 歴史文化やふるさとへの関心を高め、歴史文化の保存・活用を図ります。

II. 事業概要

1. 事業概要と利用状況

(1) 令和4年度の事業概要

令和4年度は令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策をとりながらも、イベント等の中止や延期もなく、徐々に通常の運営を取り戻しながら事業を実施することができました。

ここで、令和4年度に実施した主な事業・活動について以下に概要をまとめました。

展示・公開事業としては、観覧人数や設備の消毒に留意しながら、「考古の展示室」と「歴史・民俗の展示室」の常設展示と、計4回の企画展示を実施しました。企画展示は、今年度のメインテーマを「旧石器・縄文時代」に関するものとし、テーマに応じてそれぞれ80日前後の期間で開催しました。

学習・交流事業としては、主に4つの事業を実施しました。1つ目の「歴史スポットめぐり」では、当館のフィールド施設である市内の歴史スポットを、職員が解説しながらバスやウォーキングでめぐり、参加者の理解・関心を高める活動に繋がりました。2つ目は11月に実施した資料館最大のイベントである「資料館まつり」で、歴史文化に因んだ催しや活動、活動成果を披露する機会提供の場となりました。3つ目は各種講座・講演会の事業で、「名取の歴史講座」の開催(5回)や、講演会(2回)、出前講座等への講師派遣などを実施しました。4つ目は「ボランティア活動」で、歴史民俗資料館ボランティア(愛称:れきみんの会)が、来館者対応や自主企画事業として調査活動やイベントの企画・運営を行いました。

体験学習事業としては、様々な体験活動を実施し、事前予約により実施したものと資料館まつりで随時実施したものの、依頼を受けて個別に実施したものを含め、計25回実施しています。

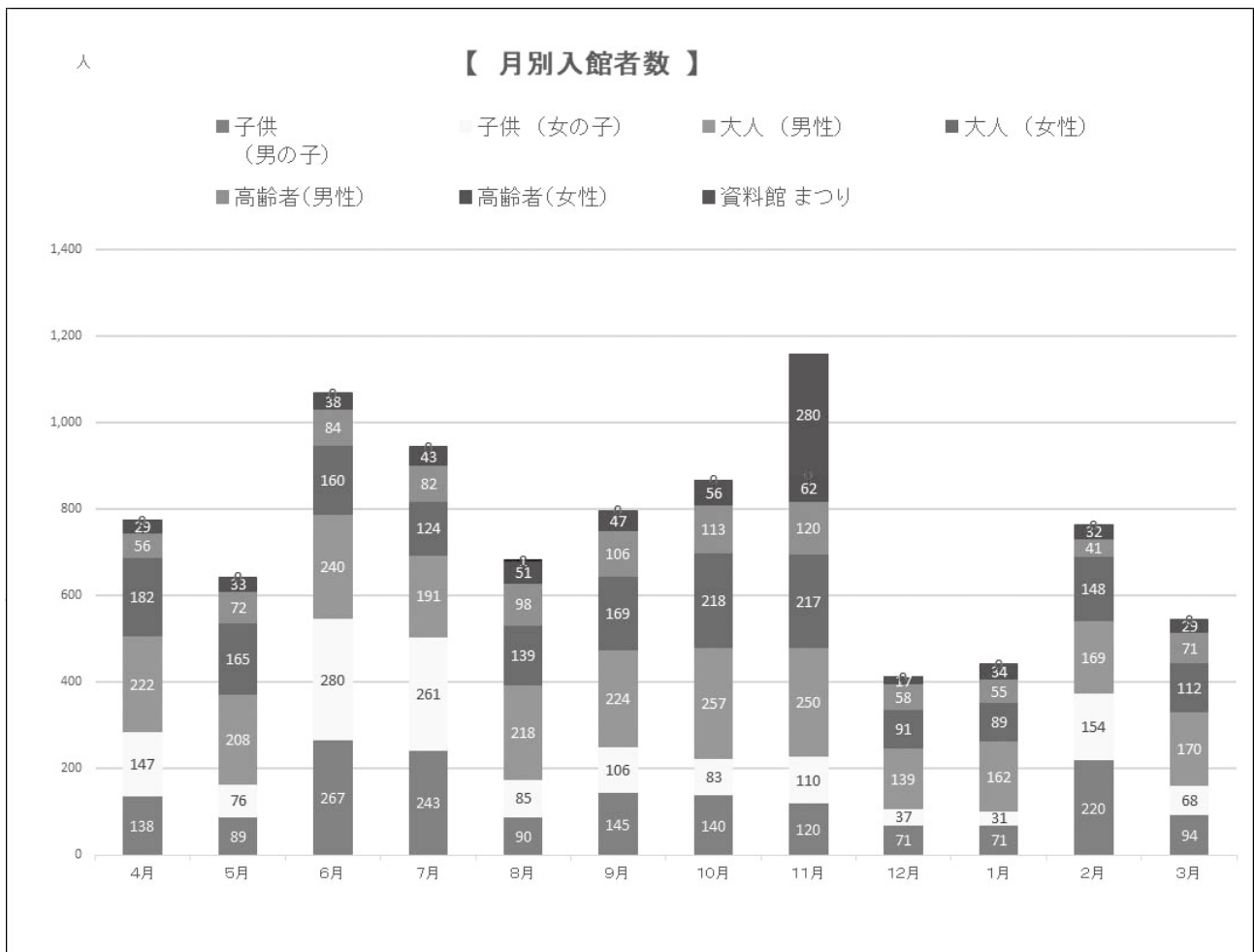
調査・研究事業は、体験学習メニューの充実を図るための検討や、まだ情報が少なく実態が判らない市内の遺跡等について、収蔵資料や新発見の資料などを整理して公開・活用するもので、成果は本年報に掲載しています。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、来館者の体調チェックや検温、手指消毒に加え、設備等の消毒などを随時実施しました。

(2) 利用状況

令和4年度の1年間における入館者数は、昨年度を上回る9,098人で、令和2年5月31日（日）のグランドオープンから令和5年3月末現在の総入館者数は延べ24,360人となっています。

月	子供 (男の子)	子供 (女の子)	大人 (男性)	大人 (女性)	高齢者 (男性)	高齢者 (女性)	外国人 (男性)	外国人 (女性)	資料館 まつり	来館者	日平均	日数	開館日
4月	138	147	222	182	56	29	0	0		774	30	30	26
5月	89	76	208	165	72	33	0	0		643	25	31	26
6月	267	280	240	160	84	38	0	0		1069	41	30	26
7月	243	261	191	124	82	43	0	0		944	35	31	27
8月	90	85	218	139	98	51	1	0		682	26	31	26
9月	145	106	224	169	106	47	0	0		797	31	30	26
10月	140	83	257	218	113	56	0	0		867	33	31	26
11月	120	110	250	217	120	62	0	0	280	879	34	30	26
12月	71	37	139	91	58	17	0	0		413	17	31	24
1月	71	31	162	89	55	34	0	0		442	18	31	24
2月	220	154	169	148	41	32	0	0		764	32	28	24
3月	94	68	170	112	71	29	0	0		544	21	31	26
R2来館者	1,139	1,103	2,263	1,617	811	512	2	1	143	7,591	30	305	251
R3来館者	1,360	1,434	2,247	1,562	728	340	0	0	312	7,671	30	365	258
R4来館者	1,688	1,438	2,450	1,814	956	471	1	0	280	9,098	30	365	308
合計	4,187	3,975	6,960	4,993	2,495	1,323	3	1	735	24,360	30	1035	817



(3) 令和5年度の主な事業計画

令和5年度に実施予定の、資料館が主催する主なソフト事業について、概略を以下に記載しています。ここで記載した事業の内容や、実施時期などについては、あくまでも現段階での計画であるため、今後の状況により、大きく変更となることや実施回数の増減が想定されることをご留意願います。

①展示・公開事業

1) 常設展示

観覧者にとって分かりやすい内容となるよう、補助パネルや解説シート設置などの工夫や、季節毎の室内装飾、代替品との展示替えなども検討しながら実施予定です。

2) 企画展示

令和5年度のメインテーマを「江戸時代」とし、これについての展示を1回、市史編さん事業についての展示を1回、名取熊野三社勸請900年を記念した展示を1回、発掘調査についての速報展を1回の計4回の企画展示開催を想定しています。内容や期間、回数なども含め、状況に応じて柔軟に変更することを基本としています。

第12回企画展「増田宿と奥州街道沿いの歴史文化」

4月9日(日)～6月25日(日):78日間

第13回企画展「わたしたちの『名取市史』…「市史」ってなあに？」

7月9日(日)～9月24日(日):78日間

第14回企画展「熊野三社900年」

10月8日(日)～12月24日(日):78日間

第15回企画展「令和4年度 発掘調査報告展」

R6年1月7日(日)～3月24日(日):78日間

②学習・交流事業

1) 歴史スポットめぐり

資料館開館当初から開催している海と山それぞれをメインとした「メジャーコース」に加え、名取熊野三社勸請900年を記念した新たな「熊野三社コース」、増田周辺の文化財をめぐる「増田宿歩き」など、計6回を予定しています。

増田宿歩き (4月頃):奥州街道・増田宿コース

増田宿歩き (5月頃):奥州街道・増田宿コース

第1回歴史スポットめぐり (5月頃):メジャーコース

第2回歴史スポットめぐり (9月頃):熊野三社コース

熊野三社歴史ウォーキング (11月頃):熊野めぐりコース

第3回歴史スポットめぐり (3月頃):旧石器・縄文コース

2) 第4回 資料館まつり

資料館最大のイベントである「資料館まつり」は11月頃の開催を予定しています。開催日については「秋まつり」を含め、他の行事の日程なども勘案しながら決定する予定です。各イベント等の実施場所は、昨年同様、下記を基本に内容の変更や充実を図りながらの実施を検討しています。

屋外メインステージ (民俗芸能披露2件、昔ばなし語り、吹奏楽演奏ほか)

展示室 (展示案内・解説)

体験学習室 (まが玉づくり、貝殻キーホルダーづくり、缶バッジづくり、火おこし)

古墳ふれあい広場 (はに輪投げ、水鉄砲的あて)

物販 (ドリンク、雑貨など)

※ カッコ内は第3回目の主な実施内容です。

3) 歴史講座・講演会

歴史講座

名取の歴史や民俗、自然などを学ぶ講座を計6回開催する予定です。実施時期や内容については未確定ですが、主に企画展示の関連イベントとして、企画展示内容に関わる講座を実施する予定です。

第1回 歴史講座（4月頃） 13:30～14:30 ※ 歴史スポットめぐりと同時開催

第2回 歴史講座（5月頃） 13:30～14:30 ※ 歴史スポットめぐりと同時開催

第3回 歴史講座（7月頃） 13:30～15:00

第4回 歴史講座（10月頃） 13:30～15:00

第5回 歴史講座（1月頃） 13:30～15:00

第6回 歴史講座（3月頃） 13:30～15:00

講演会

令和5年度のメインテーマである「江戸時代」などに関する講演会を、外部講師を招いて開催する事を検討しています。

各種案内・出前講座

昨年度同様、随時の依頼によるものや、市の出前講座への申し込みによる小油脂派遣などを含め、資料館の展示解説や市の主な文化財、歴史スポットなどの案内や説明を行います。実施にあたっては、出来るだけニーズに合わせてながら対応する予定です。

4) ボランティア研修講座

当資料館では、現在28名のボランティアの方々が活動しています。資料館の事業や活動の円滑な実施を図るとともに、資料館とボランティアの皆さんが連携をとりながら、より充実した活動を行い、利用者の満足度や利便性の向上につながるよう、新規ボランティアを対象とした展示解説や体験学習サポートのための研修講座を年5回実施する予定です。これらは既に活動しているボランティアのスキルアップ講座も兼ねていますが、ほかにも、展示解説の案内人や体験学習の講師を務めるための追加研修を実施する予定です。また、資料館主催の各種講座やイベントなどにも研修を兼ねて参加していただきながらの活動を予定しています。

5) 市内小学6年生（義務教育学校6年生）訪問学習

本格的に歴史の学習がはじまる小学校6年生（義務教育学校6年生）を対象に、資料館への訪問学習を実施し、郷土の歴史や先人たちの暮らしについて学ぶ機会を提供します。具体的には、資料館が作成した学習ノートを活用した展示室での学習活動や、まが玉づくりなどの体験を組み合わせた活動を計画しています。実施にあたっては、各学校の要望に合わせてながら、柔軟に対応する予定です。また、スムーズに訪問学習を実施するため、移動手段の確保なども検討しています。

③体験学習事業

魅力ある体験メニューを用意し、来館者の体験活動のサポートなどを行います。

1) 体験学習・体験イベント

令和4年度に実施した体験学習メニューを基に、令和5年度以降も内容を検討しながら、メニューの充実を図る予定です。

まが玉づくり・缶バッジづくり・拓本しおりづくり・竹の水鉄砲づくり

ミニ縄文土器づくり・ミニ埴輪づくり・土製品マグネットづくり・貝殻キーホルダーづくり

タデアイの生葉染め・タデアイの煮出し染め・火おこし・けしごむはんこづくり

アンギン編みのミニ敷物づくり・稲わらで正月飾りづくり・紙漉き・繭の糸繰り

2) 実施検討メニュー

今後も体験学習メニュー数を増やしたり、内容のブラッシュアップを図ったりしながら実施して

いく予定です。下記の内容に限らず、柔軟にメニューを取り入れながら実施していきます。

管玉づくり・石器の製作や使用体験・拓本体験（石碑）・網代編み

④調査研究事業

当資料館では、歴史や考古、民俗などをはじめとする多様な歴史文化の保存・活用を行っており、特に本市に関わるものについて、引き続き調査・研究を進める予定です。資料館が実施する学習交流や体験活動などを通じて、多くの方々から寄せられる情報なども参考にしながら、その成果の蓄積・継承や活用を行います。主な対象は、以下のものが想定されますが、具体的な内容については柔軟に実施する予定です。

- 名取の歴史・民俗に関する調査研究
- 体験メニューの開発に関する調査研究
- 資料館利用学習のプログラムに関する調査研究
- ボランティアスタッフとの協働調査研究
- 上記の研究成果をまとめた報告書の刊行

2. 展示・公開

(1) 常設展示

約2万年前頃から受け継がれてきた多くの歴史文化の中から、特に名取市の歴史文化の特徴や魅力を物語る6つのテーマに絞って、写真・映像・解説などにより分かりやすく紹介しています。

展示室は「考古の展示室」と「歴史・民俗の展示室」の2つの展示室があります。

①オリエンテーションルーム

常設展示はテーマに絞った展示になっていることから、市の歴史文化の概要や大きな流れを把握しにくいおそれがあります。そこで入口脇にあるオリエンテーションルームでは、60インチのモニターでの2つの映像を通じて、予め本市の歴史の流れや概要を見た上で常設展示などをご覧頂くことを意図したものです。2つの映像は、通史を紹介する「なとり歴史の旅」と市内の主な歴史スポットを上空から紹介する「なとりの歴史 空中散歩」と言う10分程度のもので、ボタンで選択して見ることができます。

②考古の展示室

雷神山古墳をはじめとする、旧石器時代から平安時代頃にかけての発掘調査の出土品や資料を中心にご紹介しています。

入口正面には、導入部として自然環境と人々の暮らしの広がりを視覚的に見ることが出来る「考古資料からみた名取」のコーナーがあります。名取市の地形模型に現在の市の様子や、過去の海岸線と人々の暮らしの広がりを、大きく4つの時期に分けて、プロジェクションマッピングにより、海岸線などをはじめとする自然環境の変化と、それに応じて丘陵部から平野部へと拡大していく生活区域の変遷をイメージと音声で理解することが出来ます。

展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

【テーマ1：愛島・高館の森や海辺の丘と縄文のくらし】

市西部の丘陵や「名取が丘」がある丘陵で展開された、市の歴史の原点とも言える旧石器時代や縄文時代の暮らしに焦点をあてたものです。自然との共生の中で、生活の舞台として選ばれたことを物語る文化財を展示しています。コーナーの最後には、考古の展示室が対象とする時代の年表があります。

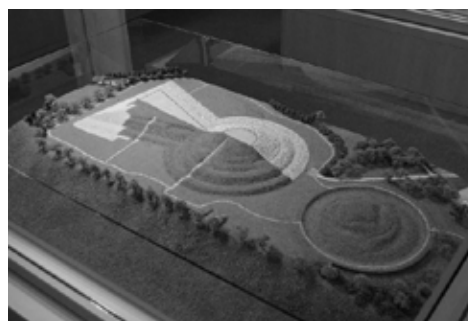


- 主な内容：野田山遺跡、泉遺跡、今熊野遺跡、前野田東遺跡、宇賀崎貝塚、金剛寺貝塚

【テーマ2：雷神山古墳と花開いた古墳文化】

古墳文化繁栄のシンボルであり、当時は東北の中心であったことを物語る「雷神山古墳」のほか、多数の古墳、他の地域との交流を伝える出土品に焦点をあてたものです。また、稲作をはじめとする大陸文化の伝来により、その繁栄の基礎がつけられた弥生時代の文化財も含め展示しています。

- 主な内容：十三塚遺跡、原遺跡、今熊野遺跡、雷神山古墳、飯野坂古墳群、下増田飯塚古墳群



【テーマ3：名取郡の成立と実方中将】

8世紀（700年代）の初め頃の「名取郡」成立により、歴史の舞台に「名取」が登場します。名取郡には当時の陸奥国府が置かれるなど、それ以前と同様に政治・文化の中心地でした。丘陵部には多賀城へと続く東山道が整備され、平安時代の著名な歌人「藤原実方」の旧跡をはじめ、様々な暮らしの痕跡が残されており、平野部でも大きな集落が営まれました。



- 主な内容：清水遺跡、笠島廃寺跡、藤原実方の墓、道祖神社、前野田東遺跡、熊野堂横穴墓群

③歴史・民俗の展示室

熊野三社をはじめとする、平安時代以降の歴史や暮らしに関する資料をご紹介します。

展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

【テーマ4：熊野三社と名取の老女】

平安後期に成立と伝わる熊野三社は、全国3,000か所以上ある熊野ゆかりの社寺の中で、紀州熊野三山と同じく、本宮・新宮・那智の3社を個別に祀り、位置関係なども似せるなど、全国的にも珍しい特徴を有し、多くの関連する文化財が伝えられています。その成立に深く関わる「名取老女」の伝承や旧跡にも焦点をあてた展示です。

モニターでは「見てみよう！熊野三社の伝説と芸能」があり、タッチパネルでみたい神楽などの映像を見ることが出来ます。その前面には昭和50年頃の熊野三社付近の様子を再現した模型で位置関係や立地環境が分かります。



- 主な内容：熊野本宮社、熊野神社（新宮社）、熊野那智神社、熊野新宮寺、大門山遺跡

【テーマ5：増田宿と洞口家・旧中沢家住宅】

仙台藩に属した江戸時代には、市中央の奥州街道沿いに増田宿の「まち」が、平野部には洞口家住宅などの水田・堀・いぐねに象徴される田園集落、西部の丘陵部や谷筋などには、鎮守・村堂・山林・池・墓地などで構成される、暮らしの原風景ともいえる素朴な集落が営まれました。それぞれの環境に応じて展開した暮らしに焦点をあてた展示です。敷地も含めた洞口家住宅の模型や、迫力ある釜神さまも展示されています。



●主な内容：館腰神社、洞口家住宅、衣笠の松、鶴見屋土蔵、旧中沢家住宅

【テーマ6：貞山運河と閉上】

名取川河口の港まち閉上は、仙台と外洋をつなぐ物資運搬や漁業・農業を生業とし、江戸時代には藩直轄の港として、「貞山運河」や名取川を通じた城下への材木・米の運搬などで賑わいました。明治には、増田・閉上の2つの「まち」を結ぶ新道が、大正末～昭和初期には、増東軌道が整備されました。この様な、海岸文化の拠点としての特色に焦点をあてた展示です。コーナー内には、歴史民俗の展示室の展示に関わる年表やマップもあります。



●主な内容：貞山運河、増東軌道、閉上土手の松並、閉上大漁唄込み踊、日和山、津波碑

【名取のくらしの道具】

常設展示の6つのテーマのほか、弥生時代から人々の暮らしを支えてきた米作りをはじめ、かつては名取でも行われていた養蚕、宿場町などで使われていたと思われる生活の道具などを展示したコーナーを設けています。



(2) 企画展示

①第8回企画展「名取の貝塚—海や潟湖と縄文人のくらし—」

○展示内容：名取市にかつてあった貝塚や今に残る貝塚を通して、環境の移り変わりを振り返りながら、縄文人が海や潟湖とどう関わりながら暮らしていたのか、金剛寺貝塚や山畑南貝塚の出土遺物とともにご紹介しました。

○会期：令和4年4月10日（日）～6月26日（日）

○開催日数：78日間

○入館者：2,121人

○展示資料：宇賀崎貝塚出土遺物、金剛寺貝塚出土遺物など

○関連事業：土笛・土偶づくり、貝殻キーホルダーづくり、歴史スポットめぐり、講座、展示解説案内

○担当者名：鈴木舞香、太田昭夫



②第9回企画展「織物の歴史とその道具－糸から布へ－」

- 展示内容：令和3年度に市民の方から寄贈された「高機」という資料を中心に、糸や織物にまつわる考古資料や民俗資料を紹介し、名取で行われていた衣にまつわる生業についてご紹介しました。
- 会期：令和4年7月10日（日）～9月25日（日）
- 開催日数：78日間
- 入館者：2,009人
- 展示資料：高機、烏帽子破片（下増田飯塚古墳群出土）、布目圧痕土器（原遺跡・泉遺跡出土）など
- 関連事業：タデアイの生葉染め・タデアイの煮出し染め・ミニ敷物（アンギン編み）づくり、講座、展示解説案内
- 担当者名：鈴木舞香、安孫子礼美



③第10回企画展「名取の縄文ムラ－森と縄文人の暮らし－」

- 展示内容：ムラをつくり、豊かな森と生活していた縄文人の暮らしについて、2つの時期の名取市外の代表的な縄文ムラを紹介し、縄文人が森とどのようにかかわりながら暮らしていたか、今熊野遺跡や泉遺跡出土の資料とともにご紹介しました。
- 会期：令和4年10月9日（日）～12月25日（日）
- 開催日数：78日間
- 入館者：1,889人
- 展示資料：今熊野遺跡出土縄文土器（東北歴史博物館）、泉遺跡出土石器・石製品など
- 関連事業：歴史スポットめぐり、ミニ縄文土器づくり、講演会、講座、展示解説案内
- 担当者名：鈴木舞香、太田昭夫



④第11回企画展「令和3年度発掘調査報告展」

- 展示内容：令和3年度に実施した発掘調査の中から、本発掘調査にて成果を得ることができた八幡遺跡、下余田遺跡をご紹介しました。
- 会期：令和5年1月8日（日）～3月26日（日）
- 開催日数：78日間
- 入館者：1,593人
- 展示資料：八幡遺跡・下余田遺跡出土品など
- 関連事業：墨書土器づくり、講演会、講座、展示解説案内
- 担当者名：庄子美祐、相澤清利



	企画展名	期間	入館者
第1回	なとりの王が教える 名取の古墳	令和2年5月31日(日)～9月6日(日)	2,702
第2回	山岡古墳のお宝 一時里帰りした名取の至宝	令和2年9月19日(土)～12月20日(日)	2,818
第3回	令和元年度発掘調査報告展	令和3年1月9日(土)～3月28日(日)	1,690
第4回	名取熊野三社と周辺の歴史文化遺産	令和3年4月10日(土)～6月27日(日)	1,726
第5回	海辺の豪族の墓－経ノ塚古墳－	令和3年7月11日(日)～9月26日(日)	1,282
第6回	名取熊野三社と周辺の歴史文化遺産2－中世後半～近世	令和3年10月10日(日)～12月26日(日)	2,240
第7回	令和2年度発掘調査報告展	令和4年1月9日(日)～3月27日(日)	1,600
第8回	名取の貝塚－海や潟湖と縄文人の暮らし－	令和4年4月10日(日)～6月26日(日)	2,121
第9回	織物の歴史とその道具－糸から布へ－	令和4年7月10日(日)～9月25日(日)	2,009
第10回	名取の縄文ムラ－森と縄文人の暮らし－	令和4年10月9日(日)～12月25日(日)	1,889
第11回	令和3年度発掘調査報告展	令和5年1月8日(日)～3月26日(日)	1,593

(3) 名取市図書館情報発信コーナー

多くの方に名取市の歴史・文化を知ってもらえるよう、名取市図書館の情報発信コーナーで、時代ごとにテーマを設けて展示・公開をしています。

3. 学習・交流活動

(1) 歴史スポットめぐり

① 市内歴史スポットめぐり

市内歴史スポットめぐりは、資料館の展示と市内各所に点在する魅力あふれる歴史スポットを、職員の解説を聴きながらバスでめぐるツアーです。令和4年度は、5月・9月・10月に2回ずつ、計6回のスポットめぐりを実施しました。市内を代表する歴史スポットをめぐるコースを設定し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎回の募集人数を15～20名に限定し、各回バス2台を借りて実施しました。今後も、新しいコースを増やししながら、継続的に取り組んで行く予定です。

【旧石器・縄文コース】

旧石器から縄文時代の暮らしの舞台となった愛島や高館周辺の歴史スポットをめぐるコースです。

- 宇賀崎貝塚→名取大塚山古墳・賽ノ窪古墳群→
泉遺跡・前野田東遺跡→野田山遺跡→今熊野遺跡→
金剛寺貝塚→文化財収蔵館→十三塚遺跡・旧中澤家住宅

【おすすめコース①】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市西部の高館や愛島地区の丘陵部と、中央の増田地区などを中心に回るコースで、熊野三社や藤原実方の墓などのほか、雷神山古墳や旧中澤家・洞口家住宅をめぐるコースです。

- 熊野那智神社→熊野本宮社→熊野神社(新宮社)→
藤原実方の墓→十三塚遺跡→旧中澤家住宅→
雷神山古墳→衣笠の松→洞口家住宅

【おすすめコース②】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市中央部の増田や東部の下増田・関上地区を中心に回るコースで、下増田飯塚古墳群や、関上の日和山、関上土手の松並などのほか、雷神山古墳や旧中澤家・洞口家住宅をめぐるコースです。



●十三塚遺跡・旧中澤家住宅→雷神山古墳→飯野坂古墳群→下増田飯塚古墳群→
日和山・貞山運河→震災復興伝承館→閑上土手の松並

1) 第1回歴史スポットめぐり

日時：5月15日（日）9：00～15：00 参加者：15人 内容：旧石器・縄文コース
日時：5月22日（日）9：00～15：00 参加者：16人 内容：旧石器・縄文コース

2) 第2回歴史スポットめぐり

日時：9月17日（土）9：00～15：00 参加者：20人 内容：おすすめコース①
日時：9月18日（日）9：00～15：00 参加者：12人 内容：おすすめコース②

3) 第3回歴史スポットめぐり

日時：10月29日（土）9：00～15：00
参加者：13人 内容：旧石器・縄文コース
日時：10月30日（日）9：00～15：00
参加者：8人 内容：旧石器・縄文コース

②熊野三社歴史ウォーキング

熊野三社歴史ウォーキングは、職員の解説を聴きながら、熊野那智神社・熊野本宮社・熊野神社をめぐるウォーキングイベントで、今年度は5月に開催しました。

日時：令和4年5月29日（日）8：45～12：00
参加者：13人

③旧中澤家住宅見学会

約20年ぶりの屋根葺き替え工事を終えた国指定重要文化財旧中澤家住宅の見学会を行いました。資料館職員による解説のほか、民俗資料を使った稲の脱穀・糺摺り体験や火おこし体験、缶バッジづくりや火おこし体験など、様々な体験も行いました。

日時：5月3日（火・祝）10：00～14：00
参加者：22人

④資料館バックヤードツアー

資料館のバックヤード施設である文化財収蔵館の見学会を行いました。資料館での展示見学後、収蔵館で普段見ることができない資料や、資料収蔵の様子を見学しながら、資料整理のための拓本とり体験を行いました。

日時：9月11日（日）13：30～15：30
参加者：10人



(2) 資料館まつり

当資料館が主催する1年で最大のイベントである資料館まつりの第3回目を、令和4年11月12日(土)に開催しました。当日は秋晴れの天候に恵まれ、家族連れなど延べ280名の方々に来館頂きました。

会場では、名取の歴史のシンボルでもある雷神山古墳をイメージした「古墳クッキー」がもらえるスタンプラリーのほか、ステージでは民俗芸能や昔ばなし、吹奏楽の披露、体験学習室ではまが玉づくり体験や火おこしなど、様々な催しが行われました。

日時：令和4年11月12日(土)

10:00～14:00 参加者：280人

資料館まつり
11月12日(土)
10:00～14:00
※雨天の場合は11月13日(日)に順延
※日雨天の場合は中止

ステージ
くまのどうりやにじんしおどり
1. 熊野堂十二神鹿踊 10:10～
2. 資料館ビンゴ大会 10:50～
3. 花町神楽 11:30～
4. はに輪投げ 12:05～
5. 資料館クイズ(答え合わせ) 12:35～
6. などりの昔ばなし 12:55～
7. 名取市立第一中学校 吹奏楽部 13:25～

体験イベント
・まが玉づくり ※材料費200円必要です。
・舞い切り式火おこし
・貝殻キーホルダーづくり
・オリジナル缶バッジづくり
・はに輪投げ
・水鉄砲的あて

その他
・スタンプラリー
・友愛作業所 物販
※友愛作業所は「名取の歴史を伝える」をテーマに、古墳クッキーをプレゼントし、販売しています。

名取市歴史民俗資料館 9:00～17:00
〒981-2224 名取市中央一丁目2-37
TEL:022-724-7933 FAX:022-724-7936

【メインステージ】

敷地内の駐車場に設けられたメインステージでは、「エフエムなとり」のMCのもと、午前中には、熊野堂十二神鹿踊保存会の皆さんによる、市指定無形民俗文化財「熊野堂十二神鹿踊」や、花町神楽保存会の方々による、市指定無形民俗文化財「花町神楽」の披露のほか、資料館ビンゴや資料館クイズなどの企画が行われました。

また、午後からは、なとり昔ばなし語りの会の皆さんによる、味わい深いなとりの昔ばなしや、名取第一中学校吹奏楽部の皆さんによる迫力ある生演奏などを披露していただきました。

【古墳ふれあいひろば】

古墳ふれあいひろばでは「はに輪投げ」や「竹の水鉄砲的あて」が行われました。「はに輪投げ」は、名取の古墳からも見つかった円筒埴輪のレプリカを的にした輪投げです。「竹の水鉄砲的あて」は、れきみんの会が作製した竹製の水鉄砲を使った的あてです。どちらもれきみんの会主体で運営され、5回中すべての輪投げや的あてに成功した方に古墳クッキーをプレゼントしました。また、時間限定で行われたスペシャルタイムでは、難易度がやや下がり、5回中3回以上成功した方にクッキーをプレゼントしました。どちらも大人気のイベントとなり、大人から子供まで楽しめる企画となりました。

【体験イベント】

体験学習室内では、まが玉づくり、缶バッジづくり、貝殻キーホルダーづくりを行いました。屋外では、火おこし体験を行いました。主にれきみんの会のみなさんが指導や補助を行い、来館者の方々の活動をサポートしました。

【その他】資料館スタンプラリー、物販コーナー

受付前には、心の病で障がいをお持ちの方への就労支援を行っている名取市友愛作業所にご協力頂き、物販コーナーを設置しました。



(3) 歴史講座

①第1回歴史講座「名取の貝塚と縄文人」

内容：第8回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：4月17日（日）13：30～15：00 参加者：24人 講師：太田昭夫

②第2回歴史講座「むかしの名取のくらしと生業～糸・布・織物～」

内容：第9回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：8月27日（土）13：30～14：30 参加者：12人 講師：鈴木舞香・安孫子礼美

③第3回歴史講座「森と縄文人の暮らし」

内容：第10回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：10月16日（日）13：30～15：00 参加者：13人 講師：鈴木舞香

④第4回歴史講座「昨年度の発掘調査成果と過去の調査実績」

内容：第11回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：2月26日（日）13：30～15：00 参加者：16人 講師：庄子美祐

⑤第5回歴史講座「名取の指定・登録文化財」

内容：名取の指定・登録文化財についてご紹介した講座です。

日時：3月11日（土）13：30～15：00 参加者：18人 講師：鈴木舞香

(4) 講演会

①「縄文時代の集落 - 宮城県内遺跡」

第10回企画展の関連イベントとして開催された講演会です。企画展のテーマである縄文ムラについて、当時の環境の変化や市内における集落の移り変わりなどをわかりやすくお話しいただきました。

日時：11月6日（日）13：30～15：00

参加者：24人

講師：早瀬亮介氏（株式会社 加速器分析研究所）

会場：体験学習室



②「出土文字史料と古代の名取郡」

第11回企画展の関連イベントとして開催された講演会です。平安時代の遺跡が見つかった八幡遺跡からは、墨で文字が書かれた墨書土器が見つかっており、これに関連して、古代の遺跡から見つかる文字史料を中心に、当時の名取郡などについてお話しいただきました。

日時：1月29日（日）14：00～15：30

参加者：25人 講師：吉野武氏（宮城県教育庁文化財課） 会場：体験学習室

(5) 各種案内・マナビイ出前講座・展示解説案内

①各種案内等

団体への施設案内のほか、新聞・雑誌・ラジオなどの各種媒体に関する取材、歴史スポットでの案内など、計33件にのぼる依頼に応じて各種案内を行いました。

団体名	日時		人数	講座名/内容	対象
初任者研修	4月13日	9:30~12:00	24	現地案内、展示見学	一般
名取が丘公民館	5月24日	10:00~11:30	54	「ぶらり なとり史」	一般
	6月14日	9:00~12:00			
	7月26日	10:00~11:30			
阿武隈水系研究会	6月4日	13:00~14:00	5	展示見学	一般
尚綱学院大学	6月11日	9:30~12:00	31	展示見学	一般
高館公民館	6月13日	10:00~11:30	43	講座「900年の歴史を紐解く」 講座「名取老女ののここと、もっと知ろう」 移動研修「熊野三社巡り」 体験「けしごむはんこでオリジナル宝印を作ろう」	一般
	6月27日	10:00~11:30			
	7月11日	9:30~12:00			
	7月25日	10:00~11:30			
仙台市縄文の森広場 ボランティア会	6月15日	10:30~12:00	20	展示見学	一般
ふれあいサロン田高町西	7月20日	10:00~12:00	20	展示見学	一般
相互台公民館	7月27日	9:30~11:30	20	体験「アンギン編み」 体験「火おこし」	一般
	10月8日	10:00~11:30			
海の子・山の子交歓会	7月28日	13:30~15:00	70	展示見学、体験「まが玉づくり」	一般
相互台公民館	8月30日	10:00~11:30	14	講座「熊野三社」	一般
吉田良事務所	9月2日	13:45~14:15	2	展示見学	一般
かにっこ語りの会	9月22日	10:00~11:30	6	展示見学	一般
民生委員児童委員	9月27日	13:30~14:00	20	講座「名取の歴史」	一般
公益社団法人 仙台ユネスコ協会	10月20日	14:30~15:30	30	現地案内、展示見学	一般
名取市副校長・教頭会	10月21日	11:10~12:00	26	展示見学	一般
名取市企画部なとりの魅力創生課	10月22日	13:40~14:40	37	展示見学	一般
名取市増田西婦人会	10月25日	13:00~15:00	13	体験「まが玉づくり」	一般
仙台市富沢遺跡保存館 (地底の森ミュージアム) 市民文化財研究員	10月26日	10:00~11:30	20	展示見学	一般
一般財団法人みやぎ婦人会館	11月2日	13:00~14:00	15	現地案内「竹馬の友大学」 「第6回 名取の歴史を学ぶ」	一般
名取市教育研究会	11月4日	14:30~15:00	26	展示見学	一般
相互台公民館	11月25日	9:30~11:30	10	体験「縄文土器づくり」	一般
名取市企画部なとりの魅力創生課	1月27日	10:40~11:10	23	展示見学「市内ぐるっとめぐり」	一般
名取市立増田小学校	2月7日	9:05~9:50	160	展示見学	小学生
	2月8日	9:05~9:50			
	2月9日	9:05~9:50			
	2月10日	13:45~14:30 9:05~9:50			
図書館担当職員研修会	2月21日	14:30~16:30	25	講座「名取の歴史と文化財」、展示見学	一般

②マナビイ出前講座

生涯学習推進事業として市で実施しているマナビイ講師派遣事業「出前講座」からの依頼に応じて、資料館職員の講師派遣を行いました。

依頼団体	日時		人数	講座名/内容	構成
増田西公民館	5月26日	10:00~11:30	12	講座「出前 資料館」	一般
館腰コミュニティ運営協議会 名取市ボランティア連絡会館腰支部	8月31日	10:00~12:00	12	講座「出前 資料館」	一般

③展示解説案内

企画展の実施に合わせて、資料館の職員が常設展示および企画展示の内容や見どころを案内したもので、当日集まった方を対象に行っています。実施日は、4月23日（土）、7月31日（日）、10月23日（日）、1月15日（日）で、1日各2回の計8回です。1回あたりの説明時間は約1時間の予定ですが、参加者の方々からの質問等があるときには90分近くに及ぶこともあります。

(6) ボランティア（れきみんの会）

現在、約28名のボランティアの方々が資料館ボランティアとして活動しています。この活動は、当館が行う事業の円滑な実施を図るとともに、活動を通じてボランティアと資料館が相互に成長し、より充実した資料館の活動や地域づくり、人材育成へつなげることを目的としたものです。

令和3年度には総会が開催されてボランティア会（愛称：れきみんの会）として、資料館で開催されるイベントの補助などを行っています。令和4年度には、れきみんの会が行う自主活動として、4つの取り組みを行っています。活動内容は以下のとおりです。

昔の遊び体験 IN 旧中澤家住宅

開催日時：令和4年9月24日（土） 10：00～14：00

開催場所：旧中澤家住宅（名取市手倉田字山216-93） 来場者数：22人

内 容：竹の水鉄砲づくりやカルタ、お手玉や火おこし体験、なとり昔ばなし語りの会による昔ばなしを聞けるイベントとして開催しました。

歴史文化の写真展

開催日時：令和5年1月22日（日）～3月25日（土）

開催場所：歴史民俗資料館 オリエンテーションルーム

内 容：春夏秋冬で変わる史跡や寺社の姿、あまり知られていない文化財の写真等を撮影し、これをおして来館者へ文化財についての関心を高めてもらいながら、れきみんの会を周知することを目的として開催しました。

調査研究

1) 石造物

市内に点在する石造物について調査し、その傾向等についてまとめる。

2) 熊野三社・名取老女

熊野三社・名取老女について学習し、展示解説を10分程度でできるようにする。

3) 染物・織物

資料館が行う体験活動や資料館まつりに向けた景品づくりの補助を行う。

市内小学6年生（義務教育学校6年生）の訪問学習では、展示解説やまが玉づくり体験の講師など、臨時研修を実施しながら、ボランティア活動のスキルアップを行い、来館者対応等の活動も行っています。

令和5年度も新規ボランティアの募集を行い、引き続きボランティアの育成のための研修会の実施や、ボランティア会主催事業のサポートを行っていく予定です。

令和4年度に実施したボランティアを対象とした研修講座は以下のとおりです。

新規ボランティア研修講座

	日時		内容	
第1回	6月13日	10:30~12:00	オリエンテーション	顔合わせ・資料館及びボランティア活動の概要説明
第2回	8月15日	10:00~12:00	体験学習実習	まが玉づくり体験受講
第3回	10月10日	10:00~12:00	展示解説実習	職員による考古の展示室解説案内
第4回	12月12日	9:30~16:00	現地研修	名取市内の文化財をバスでめぐる (熊野那智神社・熊野神社・名取大塚山古墳・ 賽ノ窪古墳群・雷神山古墳・飯野坂古墳群)
第5回	2月13日	10:00~12:00	展示解説実習	職員による歴史・民俗の展示室解説案内

訪問学習研修講座

	日時		内容	
第1回	5月9日	13:30~15:30	まが玉づくり体験講師研修①	
第2回	5月16日	13:30~15:30	まが玉づくり体験講師研修②	
第3回	5月23日	13:30~15:30	展示解説案内研修①	
第4回	5月30日	13:30~15:30	展示解説案内研修②	

(7) 市内小学6年生(義務教育学校6年生)の訪問学習

歴史の学習が始まる小学6年生を対象として、資料館での展示見学やまが玉づくり体験を行う訪問学習を実施しています。令和3年度から訪問学習を実施し、市内11校の小学校が資料館を訪れ、歴史的な体験活動や郷土の歴史文化に触れる活動を行っています。

学校名	日時		人数	内容
増田小学校	6月16日	9:15~11:45	32	展示見学・まが玉づくり
	6月17日	9:15~11:45	33	展示見学・まが玉づくり
	6月24日	9:15~11:45	32	展示見学・まが玉づくり
	6月29日	9:15~11:45	32	展示見学・まが玉づくり
	6月30日	9:15~11:45	32	展示見学・まが玉づくり
下増田小学校	6月22日	9:00~15:20	73	展示見学・まが玉づくり
	6月23日	9:00~15:20	73	展示見学・まが玉づくり
館腰小学校	6月9日	9:20~11:50	28	展示見学・まが玉づくり
	6月10日	9:20~11:50	30	展示見学・まが玉づくり
愛島小学校	7月5日	9:00~11:30	40	展示見学・まが玉づくり
	7月6日	9:00~11:30	40	展示見学・まが玉づくり
	7月7日	9:00~11:30	40	展示見学・まが玉づくり
	7月8日	9:00~11:30	40	展示見学・まが玉づくり
高舘小学校	6月14日	9:20~11:50	20	展示見学・まが玉づくり
不二が丘小学校	6月21日	9:00~11:30	30	展示見学・まが玉づくり
増田西小学校	7月12日	9:30~11:20	31	展示見学・まが玉づくり
	7月13日	9:30~11:20	30	展示見学・まが玉づくり
	7月14日	9:30~11:20	30	展示見学・まが玉づくり
	7月15日	9:30~11:20	32	展示見学・まが玉づくり
ゆりが丘小学校	8月25日	10:00~11:00	29	展示見学
	8月26日	10:00~11:00	30	展示見学
相互台小学校	6月8日	9:00~11:30	25	展示見学・まが玉づくり
	9月1日	9:00~11:30	26	展示見学・まが玉づくり
那智が丘小学校	6月28日	9:30~11:40	32	展示見学・まが玉づくり
閑上小中学校	7月1日	9:30~11:40	30	展示見学・まが玉づくり

4. 体験学習活動

資料館主催の事業として参加者を募集し行った体験型のイベントです。オープン当初から実施しているまが玉づくりに加え、様々な体験メニューを増やしながら実施しています。

① まが玉づくり

名前の由来やその起源について学びながら、滑石を使って自分だけのオリジナルまが玉を作る体験です。



日時		人数
6月12日	13:30~15:30	26
9月10日	13:30~15:30	18
12月11日	13:30~15:30	7

② ミニ埴輪づくり体験

埴輪について学びながら、高さ15cm程のオリジナルミニ埴輪を作る体験です。



日時		人数
4月24日	13:30~15:30	21

③ 火おこし体験

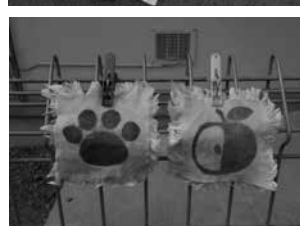
舞切り式の方法で、自力での火おこしに挑戦する体験です。



日時		人数
8月21日	13:30~15:30	20

④ タデアイの生葉染め体験

藍染めの染料になるタデアイという植物をつかって、10cm四方のコースターに模様をつける体験です。染めと洗いの全2回にわたる体験です。



日時		人数
7月23日	13:30~15:00	48
7月30日	13:30~14:30	

⑤ タデアイの煮出し染め体験

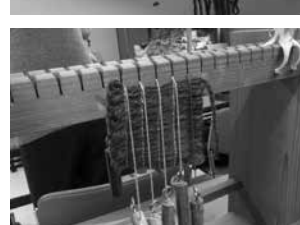
藍染めの染料になるタデアイという植物をつかい、煮出し染めで市販の毛糸を青く染め、その毛糸をつかってアンギン編みでミニサイズの敷物をつくる体験です。煮出し染めとアンギン編みの全2回にわたる体験です。



日時		人数
8月20日	13:30~15:00	26
8月28日	13:30~15:30	

⑥ アンギン編みでミニ敷物づくり

縄文時代から伝わるアンギン編みという方法で、毛糸でできたミニサイズの敷物（10cm四方）をつくる体験です。



日時		人数
6月5日	9:30~11:30	8

⑦ 拓本しおりづくり体験

土器の模様を写し取る拓本という方法を使ったオリジナルしおりづくり体験です。



日時		人数
5月8日	10:00~11:00	3

⑧ 土笛・土偶づくり体験

粘土を使って小さな土笛や土偶をつくる体験です。



日時		人数
5月4日	13:30~15:30	24

⑨ 貝殻キーホルダーづくり

UVレジンやビーズを使って、貝殻に海を閉じ込めたような、キラキラ輝く小さなキーホルダーをつくる体験です。



日時		人数
5月5日	10:00~11:00	19
12月17日	10:00~11:00	17

⑩ けしごむはんこで縄文スタンプづくり

縄文時代につくられた土偶や土器の形をかたどったはんこをけしごむで作製し、オリジナルスタンプを作る体験です。



日時		人数
6月25日	13:30~15:00	20
12月24日	13:30~15:00	7
3月25日	13:30~15:00	17

⑪ ミニ縄文土器づくり

粘土や縄などを使った高さ15cm位のミニ縄文土器づくり体験です。



日時		人数
7月24日	13:30~15:30	22
11月23日	13:30~15:30	12

⑫ 昔の遊び体験 IN 旧中沢家住宅

旧中沢家住宅にて、昔懐かしい竹の水鉄砲づくりやお手玉などのあそびを体験するものです。



日時		人数
9月24日	10:00~14:00	22

⑬ 稲穂で正月飾りを作ろう

稲穂を使って手作りの正月飾りを作る体験です。



日時		人数
11月5日	10:00~11:30	20

⑭ 紙漉き体験

牛乳パックを使ってはがきサイズの紙をつくる紙漉き体験です。



日時		人数
1月28日	13:30~15:00	19
3月18日	13:30~15:00	16

⑮ 繭の糸繰り体験

蚕がつくった繭玉から生糸を取り出し、糸枠や棒などに巻き付ける糸づくり体験です。



日時		人数
2月12日	10:00~11:30	13

⑯ 墨書土器づくり体験

資料館が作製した小皿状の土器に、墨で好きな文字などを書き、オリジナル墨書土器をつくる体験です。

日時		人数
2月19日	10:00~11:30	11

5. 調査・研究活動

今後の体験学習メニューの候補として、タデアイの生葉染め・藍染めを取り入れたオリジナルグッズの製作や、牛乳パックを用いた紙漉きによる製品づくりなど、幾つかのものについて情報収集と試作を実施したものがあります。

また、資料整理や資料化作業を通して、調査・研究を行っています。

6. 資料管理・利用

(1) 収蔵資料利用

令和4年度の収蔵資料利用としては、ラジオでの音源利用や、写真の転載など計2件の利用申請がありました。

また、当館の企画展示等の実施にあたっては、岩沼市、蔵王町、栃木県下野市、仙台市、多賀城市、愛知県陶磁美術館、仙台市博物館、東北歴史博物館へ写真や図版資料の利用申請および資料借用申請を行いました。

(2) 資料調査

令和4年度では、当館の収蔵資料の中から考古資料についての資料調査や閲覧・写真撮影などの依頼が計5件ありました。十三塚遺跡出土土器や民俗資料の調査など、個人の調査・研究や名取市の市史編さん事業で利用することを目的とした調査です。今後も、収蔵資料などの情報発信に努めながら、より多くの利用が図られ、新たな知見の発見につながることも期待されます。

(3) 寄贈・寄託

資料館の開館後、民俗資料を中心とした資料の寄贈の問い合わせなどが寄せられており、資料館の職員が、収蔵資料の状況などに基つき手続きを行い、寄贈頂いたものがあります。令和4年度には合わせて3件の資料を寄贈いただきました。寄贈いただいた資料は、金剛寺貝塚資料、旧紙幣類、糸繰機、平鍬、デルビル式電話機などがあり、寄贈いただいた資料については、収蔵資料などへの登録を行い、今後の展示公開や体験、調査・研究活動などへ活用していく予定です。



(4) 収蔵資料整理

市が所蔵している資料のうち、考古資料約13,000点についてはデータベース化が終了し、令和2年度からHPでの公開を開始しています。令和4年度については、考古資料の中で公開済みのデータに対して新たに1,237件分の画像、1,367枚を追加しています。また、民俗資料についても、公開済みのデータに追加する画像の準備や、新たに受け入れた寄贈資料に対する整理・登録作業や調査など、データ化を引き続き行って公開の準備を進めています。

(5) 燻蒸・調査

展示室をはじめとする当資料館の建物は、東日本大震災の後に図書館として建築された木造建築を改修したものであり、気密性や遮蔽性など、専用施設として計画された建物に比して相対的に低い状況です。また、その環境が年間の気候変動などでどのように推移していくのか、施設利用開始後の実態を調査・分析し、その結果に基づいて対応していく必要があります。また、展示物などに対して加害の恐れがある害

虫や細菌類などの生息調査についても同様に必要で、一定の基準以下となるよう燻蒸処理を行う必要があり、専門業者へ業務委託を行い環境調査や収蔵・展示資料の燻蒸処理を行いました。

環境調査では、展示室のほか文化財収蔵館1階も対象区域に含め、6月と1月から2月にかけての計2回、それぞれ約1ヵ月間実施しました。調査内容には①昆虫生息調査、②浮遊菌調査、③塵埃調査（温湿度・炭酸ガス・照度含）があり、その結果、①では6月に考古の展示室から木製品や書籍、乾燥植物質や動物標本を加害する文化財害虫のジンサンシバンムシが捕獲されました。また、文化財収蔵館からは、同じく木製品や書籍等を加害するタバコシバンムシや、乾燥した動物質のものを加害するヒメマルカツオブシムシが確認されました。ヒメマルカツオブシムシについては、1つのトラップに複数個体でまとまって捕獲されたことから、室内での発生も考えられ、いずれも該当付近の目視点検や清掃による清潔な環境維持、継続的なトラップ設置が推奨されました。冬の時期にはチャタテムシ類の僅かな捕獲にとどまり、良好な環境とされました。②浮遊菌調査では、令和2年度から引き続き、文化財収蔵館の数値が基準値を上回り、施設自体が経年劣化などによる外気の影響を受けやすい環境にあることが示されました。梅雨時期から夏にかけて除湿機を活用するなど、高温環境への対策実施が推奨されています。③の塵埃調査では、特に異常は認められませんでした。

展示収蔵資料の燻蒸作業は、施設の特徴から建物自体の密閉が困難であることから、体験学習室の内部に骨組みによる幅4m×奥行5m×高さ1mの密閉空間を作り出し、その内部に燻蒸対象となる展示・収蔵資料を入れ込み、公益財団法人文化財虫菌害研究所の認定薬剤をガス化・充填して行う包み込み燻蒸処理により実施しました。今回燻蒸処理を行った主な資料には、歴史・民俗の展示室の常設展示資料の内、古文書資料や民俗資料、文化財収蔵館で収蔵している古文書や書籍、借用などの件数の多い民具資料などを優先的に行いました。実施期間は約1週間で、この間、一時展示を中止した物があります。



7. 刊行物

資料館が作成した刊行物は、令和2年度より毎年刊行している『名取市歴史民俗資料館年報』のほか、資料館の施設案内パンフレット（両面3つ折り・日本語版および英語版有）があり、来館者や図書館をはじめとする市の関係施設などへ設置して各施設の利用者へ配布を行っています。

Ⅲ. 資料

1. 施設概要

平成30年12月末まで、名取市図書館として利用されてきた当館の土地や建物には、東日本大震災の後に、カナダ連邦政府、ブリティッシュコロンビア州やアルバータ州、カナダウッド、（公財）日本ユニセフ協会や（公財）図書館振興財団をはじめとする支援で建てられた施設が多くあります。

当資料館の整備においては、これらの施設を出来るだけ活かしながら、市の歴史文化の保存・活用の拠点となる施設として整備しました。当館の敷地（3,871㎡）内には、（1）～（4）の4つの建物のほか駐車場・駐輪場、古墳ふれあいひろば、親子ひろばがあります。

(1) 考古の展示室

オリエンテーションルーム、考古の展示室、収蔵庫、トイレ、受付・事務室があります。木造平屋建て（238㎡）。壁などの建材には、カナダツガ材が使用され、木の温もりを感じることができる建物です。平成25年のカナダ―東北復興プロジェクトによる支援で建築された建物を活用しています。

(2) 歴史・民俗の展示室

歴史・民俗の展示室、企画展示室、情報検索ブース、トイレがあります。

木造平屋建て（157㎡）の建築で、壁などの建材には杉材が用いられ、木の温もりを感じることができる建物です。平成23年10月に公益財団法人日本ユニセフ協会の支援で建築した建物を活用しています。

(3) 体験学習室

体験学習室と収納室があります。鉄骨造平屋のプレハブ建築（188㎡）です。室内では各種講座や講演会、まが玉づくりや、土器づくりなどの体験イベントなどを行うことができ水道も使用できます。テーブル・椅子を並べた場合、およそ40人での使用ができ、椅子だけを並べた場合には、約50人での使用が可能です。

(4) ボランティア室

資料館で活躍するボランティアさんの活動などを行う施設です。鉄骨造平屋プレハブの建物（66㎡）です。平成23年10月に公益財団法人 図書館振興財団の支援で建築した建物を移設し活用しています。

(5) 古墳ふれあいひろば

雷神山古墳のおよそ1/10サイズの前円墳をモチーフとした盛土や遊具がある芝生の広場です。親子で遊びながら自然に古墳の形をイメージできる広場です。

(6) 親子ひろば

「考古の展示室」の建物と「歴史・民俗の展示室」の建物の間にある屋外スペースです。「考古の展示室」入口脇のウッドデッキやベンチと併せ、小さなお子様と親子でくつろげる人工芝敷きの空間です。幼児用の遊具があります。

(7) 駐車場・駐輪場

普通車22台（ハンディキャップ専用含む）の駐車が可能です。バスの駐車は「考古の展示室」および「歴史・民俗の展示室」の裏側への駐車可能です。（職員へご相談下さい。）
駐輪場10台（屋根付き）の駐輪が可能です。



2. 組織・職員体制

(組織)

名取市教育委員会 ― 文化・スポーツ課 ― 名取市歴史民俗資料館
(文化財係)

(体制)

館長 ― 主幹 1 ― 主査 2 ― 主事 2 ― 会計年度任用職員 2

館長	鴫崎 哲也
主幹	遠藤 裕
主査	大友 透
主査	浅野 麻衣子
主事	鈴木 舞香
主事	庄子 美祐
会計年度任用職員	太田 昭夫
会計年度任用職員	安孫子 礼美

・ 館長、主幹 1 名、主査 2 名、主事 2 名は文化財係兼務

3. 予算

項目	予算額	備考
維持管理費	11,431,000円	職員人件費除
事業活動費	6,188,000円	

4. 条例・規則

○名取市歴史民俗資料館条例

令和元年 12 月 27 日

名取市条例第 24 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 30 条及び地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 考古資料、歴史資料、民俗資料、郷土資料、埋蔵文化財等の保存及び活用を行うことにより、市民の文化の向上に資するため、資料館を設置する。(名称及び位置)

第 3 条 資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

(業務)

名称	位置
名取市歴史民俗資料館	名取市増田一丁目7番37号

第4条 資料館において、次に掲げる業務を行う。

- (1) 考古資料、歴史資料、民俗資料及び郷土資料（以下「考古資料等」という。）の収集、整理及び保管に関すること。
- (2) 考古資料等の調査及び研究に関すること。
- (3) 考古資料等の展示、利用及び普及啓発に関すること。
- (4) 埋蔵文化財に関する資料の収集、整理及び保管に関すること。
- (5) 埋蔵文化財の発掘、保全、調査及び研究に関すること。
- (6) 埋蔵文化財に関する資料の展示、利用及び普及啓発に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、資料館の設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

（職員）

第5条 資料館に、館長その他必要な職員を置く。

（観覧料）

第6条 資料館が展示する資料の観覧料は、無料とする。

（委任）

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。

（令和2年教委規則第1号で令和2年4月26日から施行）

○名取市歴史民俗資料館条例施行規則

令和2年3月18日

名取市教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、名取市歴史民俗資料館条例(令和元年名取市条例第24号。以下「条例」という。)第7条の規定に基づき、条例の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は別に休館日を定めることができる。

(1) 月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い当該休日でない日

(2) 12月29日から翌年1月3日までの日

(入館者の遵守事項)

第4条 入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示物に触れないこと及び展示室でインク、墨汁等を使用しないこと。
- (2) 許可を得ないで展示物又は資料を模写し、又は撮影しないこと。
- (3) 他の入館者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、係員の指示に従うこと。

(入館の制限等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、資料館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備器具又は展示物を損傷するおそれがあるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、資料館の管理に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(寄贈等)

第6条 資料館に資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(所蔵資料の貸出し)

第7条 資料館に所蔵されている資料(以下この条及び次条第2項において「所蔵資料」という。)の貸出しは、行わないものとする。ただし、博物館、美術館、図書館、学校その他教育委員会が適当と認める施設において所蔵資料を展示し、又は学術上の研究、学習等に用いる場合は、この限りでない。

2 前項ただし書の規定により所蔵資料の貸出しを受けようとするものは、所蔵資料貸出承認申請書を教育委員会に提出し、その承認を受けなければならない。この場合において、貸出しを受ける所蔵資料が寄託物であるときは、寄託者の承諾書を併せて提出しなければならない。

3 第1項ただし書に規定する場合における所蔵資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(損傷等の届出)

第8条 資料館の施設、設備器具、展示物等を損傷し、又は亡失させた者は、直ちに係員に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 前項の規定は、所蔵資料(前条第2項の承認を受けることにより貸し出されたものに限る。)を損傷し、又は亡失させた者について準用する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、条例の施行の日から施行する。

5. 沿革

- 平成 29 年 12 月 (仮称) 名取市歴史民俗資料館 基本計画策定
- 平成 30 年 3 月 (仮称) 名取市歴史民俗資料館 基本設計
- 平成 31 年 3 月 (仮称) 名取市歴史民俗資料館 実施設計
- 令和 元年 7 月 (仮称) 名取市歴史民俗資料館整備工事着手 (竣工 令和 2 年 5 月 15 日)
- 令和 2 年 2 月 名取市歴史民俗資料館条例制定
- 令和 2 年 2 月 名取市歴史民俗資料館条例施行規則制定
- 令和 2 年 5 月 名取市歴史民俗資料館開館 (31 日)
- 令和 3 年 8 月 来館者 1 万人達成 (7 日)
- 令和 3 年 10 月 ボランティア会「れきみんの会」設立 (11 日)

IV. 調査・研究報告

名取市飯野坂遺跡採集の弥生土器 (1)

I. はじめに

名取市教育委員会では、名取市文化財収蔵館に保管している考古資料について再整理事業を実施している。令和4年度は、名取市に寄贈されていた飯野坂遺跡の土器類について整理・資料化を行った。本資料の一部は、太田昭夫氏(1988)、相澤清利(2011)が既に報告しているが、今回、これらの資料も併せて再録し、公開・活用をはかることとした。資料整理、実測図作成、トレースは、相澤清利・佐藤友希(名取市教育委員会文化・スポーツ課文化財係)が担当し、一部の実測図は、太田氏・日下和寿氏が作成したものを使用させていただいた。また、本稿の執筆・編集は相澤が行った。

II. 遺跡の概要

飯野坂遺跡(山居遺跡)は、宮城県遺跡地名表には弥生時代前・中期、古墳時代中・後期の遺跡として掲載されている。名取市飯野坂五丁目に所在し、国史跡飯野坂古墳群(薬師堂古墳、宮山古墳、観音塚古墳など前方後方墳5基、方墳2基)の立地する丘陵端部一帯を範囲とする。本遺跡周辺には多くの弥生時代の遺跡が分布しており、近隣では西方約500mの同一丘陵上に十三塚遺跡、北方約2kmの沖積地に原遺跡が位置する。また、採集地点より南東約250mには、カラト塚古墳が所在していた。この古墳の調査で出土した弥生土器は、伊藤玄三氏(1979)が福浦島下層式を解説するなかで取り上げられている。

出土地点は観音塚古墳南西側の浅い谷をはさんだ南西斜面の裾で、この地点から40年程前に多量の弥生土器片(前・中期)が採集された。おそらく西側の約10mの比高差がある丘陵頂部から流れ込んで形成された遺物包含層からの出土であったのではないかと考えられる。遺物の量は浅いテン箱で15箱ほどである。また、勾玉未成品も同地点から採集されている(相澤 飯塚 2022)。



第1図 飯野坂遺跡の位置と採集地点



写真1 弥生土器採集地点(右手が観音塚古墳)

III. 土器の概要と時期

今回は紙幅の都合上、高坏・鉢・蓋の器種について報告し、壺・甕類や遺物の写真、引用文献等は次回とする。以下、時期ごとに概要について記載していく。

器種は1～36が高坏、37～126、138～141が鉢、127・128が瓢箪形、129～137が小型、142～164が蓋と分類した。さらに鉢は37～64・74～77・83～86・92・99が浅鉢、65・66・68～82・87～91・93～98・100・102・106・138～141が深鉢、103～105・107～109が丸底鉢、110～126が筒形土器と細別する。

1. 弥生前期末葉(十三塚東D式)

1～8・14・18・19・23・25・37～40・68・89・103～105・110～118・120～125・139・140・142

をこの時期とした。文様は工字文、変形工字文、波状文を基本とするが、磨消縄文によるものも少量認められた。沈線は太目で隆線状になるものが多い。

高坏（1～8・18・19）には、口縁部が短く内弯して立ち上がる大洞式系のもの、変形工字文の交点が決りによるもの、沈線が隆線状のものがある。高坏の坏底部外径に着目した場合、十三塚東D式では資料数が少ないものの8～9cmに収まる。一方、原式は5～9cmと幅があり、細身で円筒状の6～8cmのものが主体である。こうした点からすると、14は当該期に属する可能性が高い。37は平底であるが、東北南部型浅鉢（大坂拓2012）系譜に連なるものであろう。38・39の変形工字文交点部には、決りに伴った低い粘土粒が残されている。68は磨消縄文手法に伴い変形工字文が変容したものである。89の深鉢は、文様構成や器形が東北北部の砂沢式土器に酷似する。しかし、砂沢式では平行沈線間が無文であるのに対して、本例は縄文が施文されている。また、内面口縁端部の1条沈線が省略されていることからすると、在地化が進んだ個体と考えられる。103は山形突起をもつ丸底鉢で、3本一対の沈線による縦横の磨消帯文で文様を描く。上位は方形文、下位は方形文内に斜めの棘形文様が対称形に配置されたものか。地文は細かい刺突の疑似縄文である。このような土器は、東北南部で設定されている前期末葉の御代田式に見られる丸底鉢の文様構図と類似する（第2図1）。107・108も御代田式を特徴付ける丸底鉢のくの字形口縁部や隆線状工字文を施す点で共通している（第2図2）。110～118、120～125は、口縁部の膨らみを特徴とする筒形土器である。前期末葉から出現するもので、秋田・山形・宮城・福島県に分布する。口縁部外面には隆線状工字文が、内面の口縁端部には1条の沈線がおおむね施され、口縁の弯曲は比較的明瞭である。この器種は原式まで継続するが、同式では口縁部のふくらみが弱くなるか直線的になり、工字文も軟化し沈線化する。139は口縁部が短く直立する大洞式系譜の小型深鉢であらう。

2. 弥生中期前葉（原式）

11～13・15～17・20～22・24・26・44・46～52・54・62・63・65～67・69～72・78～82・87・90～91・96～98・106・107・109・119・126・127・138・151～153・155～160をこの時期とした。文様は工字文、変形工字文、波状文、流水文、磨消縄文の幾何学文・三角文・楕円文を基本とし、沈線は前型式より細くなるが、型式内での太さの変異幅が大きく柵形式と区別がつかないものも存在する。

高坏は前型式に比べて細身になることから、坏底部外径5～6cmの13・15～17や沈線の太さから20～22・24を当該期とする。26は柵形式に近く細線化しているが、工字文の反転部が流水型と推定される。浅鉢などに見られる単線の変形工字文については、前型式から継続するが、複線化したもの（44・47）が加わる。また、波状文は鉢形にも取り入れられるようになる（48～52）。深鉢は口縁部が内弯気味に立ち上がるもの（78～82）、直線的に立ち上がるもの（65・67・69～72）、内弯しながら短く外傾するもの（138）がある。文様は楕円文、三角文の組み合わせが主で、区画内縄文充填（69～72・79）とそれが逆転したもの（80・82）とがある（註1）。138のような形状の土器は、原式の第2図3で確認されるが、本例は沈線文様が省略されている。この器種は柵形式に継続し、主要なタイプとなっていく。109は磨消縄文による三角文の組み合わせで、底部は円文であらう。原遺跡の丸底鉢には、ネガポジは逆転しているが同様の構図を持つ例がある（第2図4）。119は筒形土器とみたが、磨消縄文文様であることからすると内弯する深鉢の可能性も考えられる。126は大型の鉢もしくは筒形土器で、区画内縄文充填の隅丸方形文である。127は瓢箪形土器の体部～底部で、磨消縄文で半楕円文を描く。該種土器は御代田式や十三塚東D式でも確認されているが、磨消縄文のものは、東北中・南部及び関東地方北・東部で中期前葉に盛行する。蓋は口縁端部に隆線状の工字文（155）、磨消縄文で楕円文（156・157）・変形工字文（158）・三角文（159）を描くものがある。160は三角文のネガポジが逆転したもので、棘を付加する。角田市鱸沼遺跡では、高坏の脚部と器種は異なるが、160とほぼ同じ構図のものが出土している（第2図5）。

3. 弥生中期中葉（柵形式）

27～36・61・64・73～77・83～86・99～102・106・154・161～164をこの時期とした。文様は変形工字文、磨消変形工字文、沈線は前型式よりさらに細線化する。文様構図は原式に比べ規格化されており、沈線幅の変異も少ない。

27～34は高坏の口縁～体部、35・36は脚部である。27・30は柵形式古段階に位置付けられる。73の深

鉢の文様は、磨消縄文による双対渦文と推定される。双対渦文の祖型は、弥生前期の福島県御代田遺跡（第2図2）・鳥内遺跡（第2図6）の例にみるように、変形工字文からの変容に求められる。中期前葉の原・鱸沼式段階では、渦文は定型的な文様とはなっておらず、錨形文をベースとしたいわば半巻状のもの（第2図7・8）が確認できる程度である。第2図8は、大ぶりの錨形文で、実測図にはうまく表されていないが、対向部に三角状の文様が上下から貫入しており、柵形式につながる要素を備えている。柵形式に至っては、双対渦文はむしろ希少で、同心円文や同相渦文が主体となる（註2）。その中で仙台市西台畑遺跡例（第2図9）は、縦位錨形文との融合で構成する双対渦文の典型例といえる。73の編年の位置づけについては、器種が異なるものの西台畑遺跡例の構図が最も近いと考え、ひとまず柵形式に比定しておきたい。161～164は磨消変形工字文施文の蓋で、このうち162・164は、沈線の交点が連結しないなど粗雑化が進んでいることから柵形式新段階である。

4. その他時期が特定できないもの

小破片で文様構成がわからないものや型式変化に乏しい単純な器形・文様を持つものなどを、以下の2つの時期幅にまとめた。

（1）弥生前期末葉～中期前葉

9・10・25・41～43・45・53・55～60・87・88・92～95・108・116・128・134・149・150が該当する。高坏口縁部の9・10、脚部の25は、長楕円形や半楕円形の磨消縄文が展開する文様とみられる（註3）。9の口唇部には磨滅のため図示はできていないが、沈線が施されている。41～43・45は単線で変形工字文を描くもので、部分のみでは時期の判断が難しい資料である。53・55～60の口縁部に太目の多条沈線を施文する浅鉢は、前期末葉～中期前葉に組成する。92は浅鉢と推定され、やや細めの沈線で平行沈線文施文後、全面にミガキがなされている。93・94の深鉢口縁部は、低めの山形突起を配し、外面調整はいずれも横位のミガキで、本遺跡で主体を占める遠賀川系甕のヨコナデとは対照的である。ただし、93の列点文は遠賀川系甕の属性要素を取り入れたものか。92～94のような器形や調整をもつ土器は、大洞式の系譜に連なるもので、北上川中・下流域の山王IV上層式～山王III層式に比較的多く類例がみられる。108は丸底鉢の体部～底部である。太めの沈線で底部中央に小さめの円文を描き、体部には三角文と曲線状の文様が組み合わされる。類似する文様の配置・構成をとるものとしては、磨消縄文で描出される鱸沼遺跡の丸底鉢（第2図10）をあげておく。128は瓢箪形もしくは筒形の体部下半の破片である。無文地上に菱形と楕円？の文様が並列する。134は器面全体に太目の多条沈線が配される小型の土器で、原式に類例が多い。

（2）弥生前期末葉～中期中葉

129～133・135～137・141・143～148の縄文施文・無文の小型鉢・蓋などが該当する。

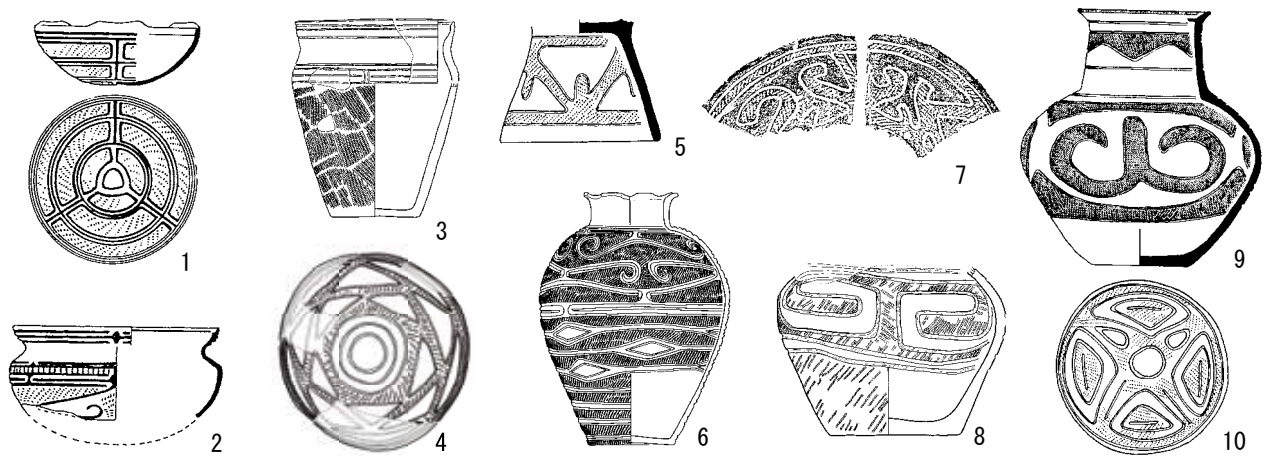
141は口縁部が直線的に立ち上がる底径の小さいバケツ形と推定される。外面はかるくなでではいるものの、幅2cm前後の輪積み痕が明瞭に残っている。内面は横位のミガキ調整で、器厚は6～7mmを計る。この土器は製塩土器の特徴を備えており、近隣の十三塚・原遺跡や仙台市域の高田B遺跡で1～数個体（註4）、沿岸部に近い沼向遺跡では、中期前葉期の個体が数多く出土している。仙台平野の北部に位置する松島湾沿岸地域は、縄文晩期から弥生期にかけての製塩遺跡が発見されており、塩の生産と供給地としての役割を担っていた。本遺跡および周辺の遺跡は、当時の海岸線があった第II浜提列から直線距離にして3.5～4km内陸部に位置している。このような内陸部での製塩活動は、位置や立地環境からして考えにくいことから、単発的に出土する製塩土器は、沼向遺跡や松島湾沿岸地域で生産された塩の流通や交易をあらわす遺物として評価しておきたい。

註1 磨消縄文のネガポジ逆転現象は、原式新段階で起こったとされている（佐藤祐輔2015）。なお、区画内縄文充填の文様構成をもつ深鉢は、十三塚遺跡東D地区でも出土している。十三塚遺跡のものは、口縁の内湾度がきつく、文様は半楕円文や三角文を半単位ずらして重ねていく構図である。飯野坂例も含む原式では、口縁部の内湾度が弱くなるか直線的になり、文様も一応半単位はずらしてはいるが、単位文様の形や大きさ、構図が不揃いになるなど軟化が進んだものもみられる。

註2 双対渦文は、柵形式に併行する東関東地方の貉式や野沢Ⅱ式の壺で盛行することが知られている。

註3 25については、十三塚遺跡や鱸沼遺跡の磨消縄文による半楕円形文様の類似性から原式併行とした経緯がある（相澤2011）。しかし、今回、脚部台形型の形状（坏底部外径と脚高の比率がおよそ1対1）や、十三塚遺跡東D区出土の磨消縄文系土器が各器種で組成し、半楕円文も十三塚東D式の文様を構成する1つと考えたため、時間幅をとってみておくこととした。

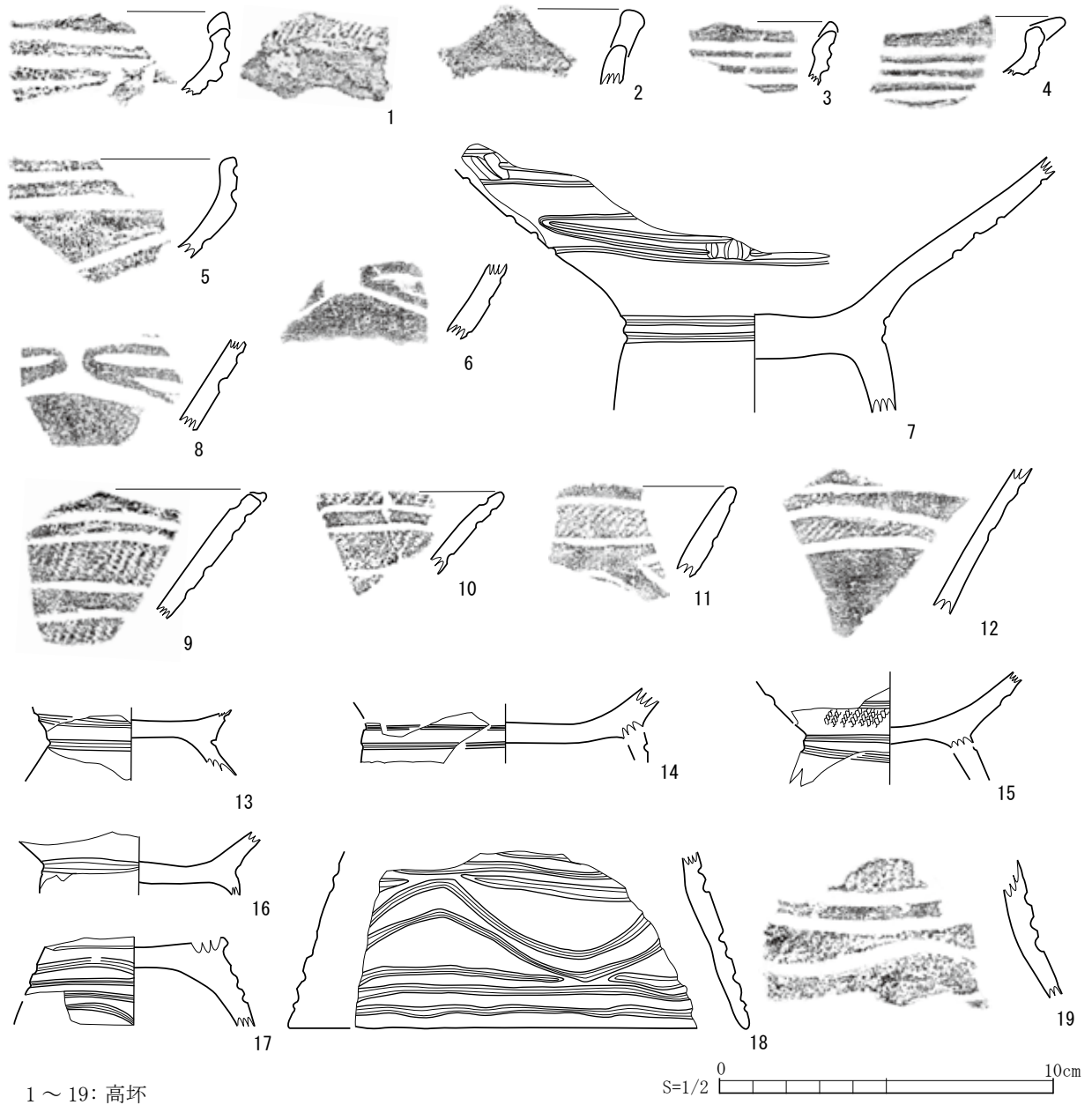
註4 外面に輪積み痕を残す粗製深鉢は、福島県域の縄文晩期後半～弥生前期中葉の時期でも散見されるので、この地域からの影響も考慮する余地はあるが、形状や法量は異なるようである。



1・2:御代田 3・4・8:原 5・7・10:鱸沼 6:鳥内 9:西台畑

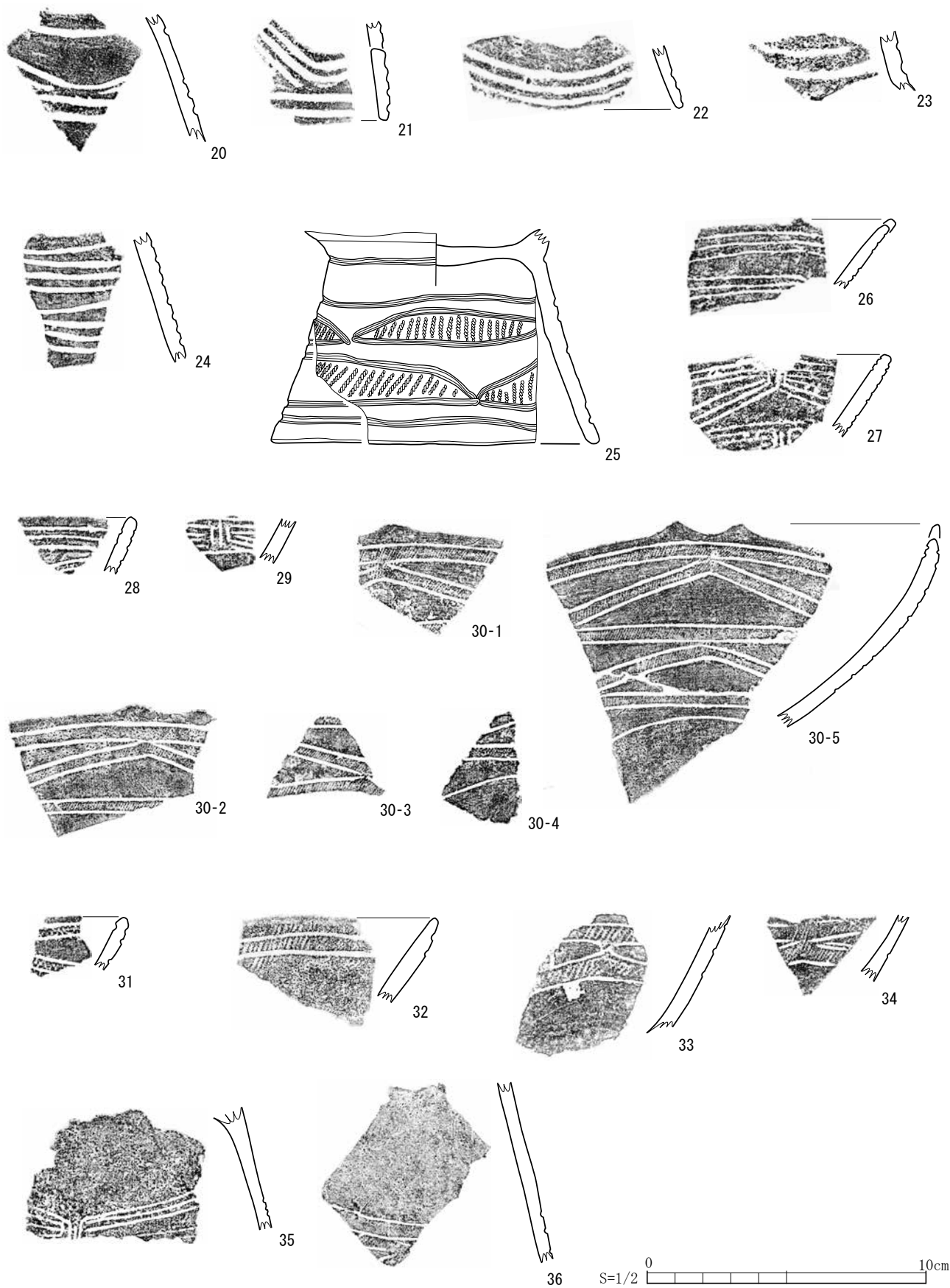
1~5, 7~10:S=1/6 6:S=1/10

第2図 引用・参考土器実測図



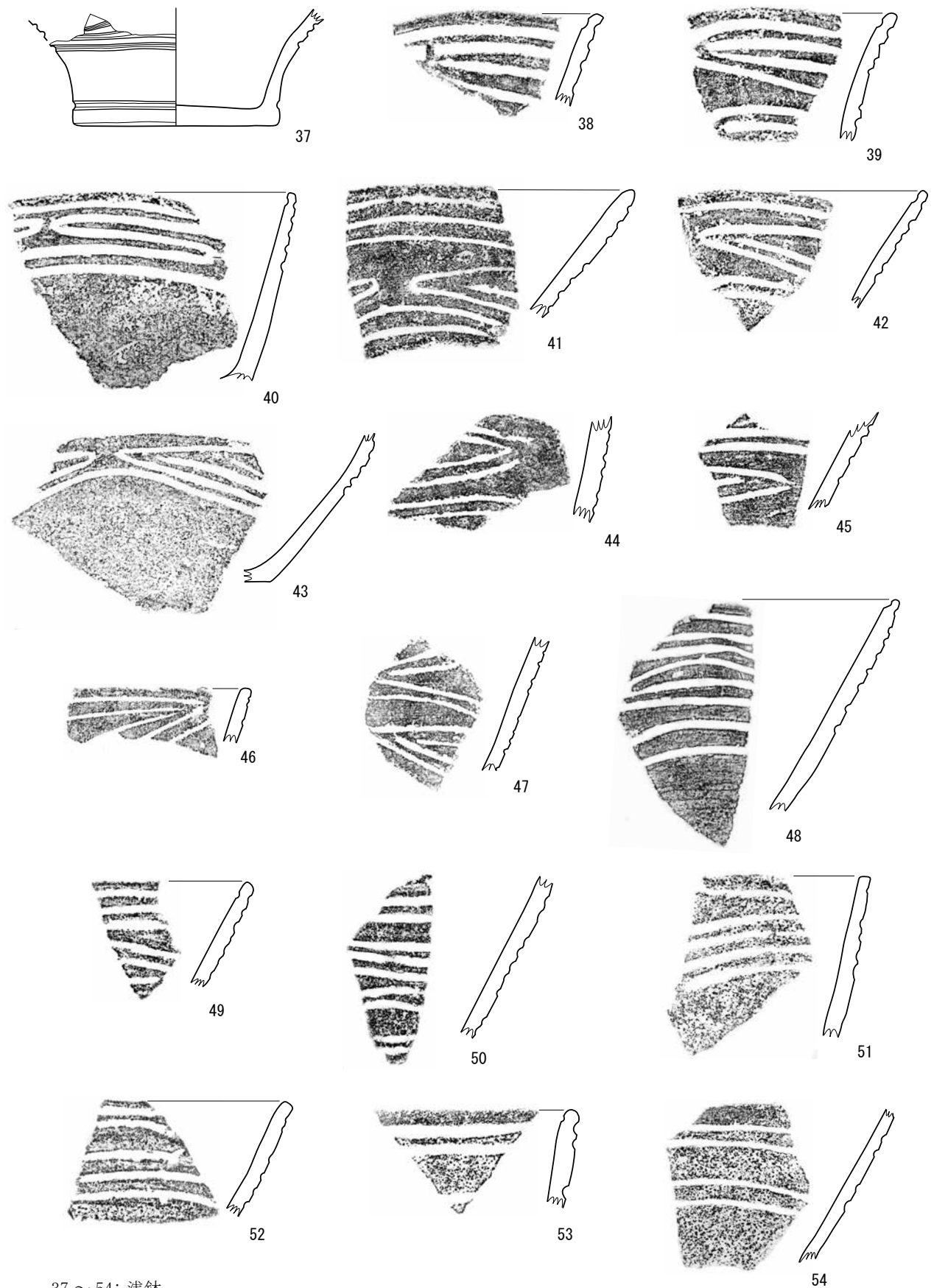
1 ~ 19: 高坏

第3図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(1)



20 ~ 36: 高坏

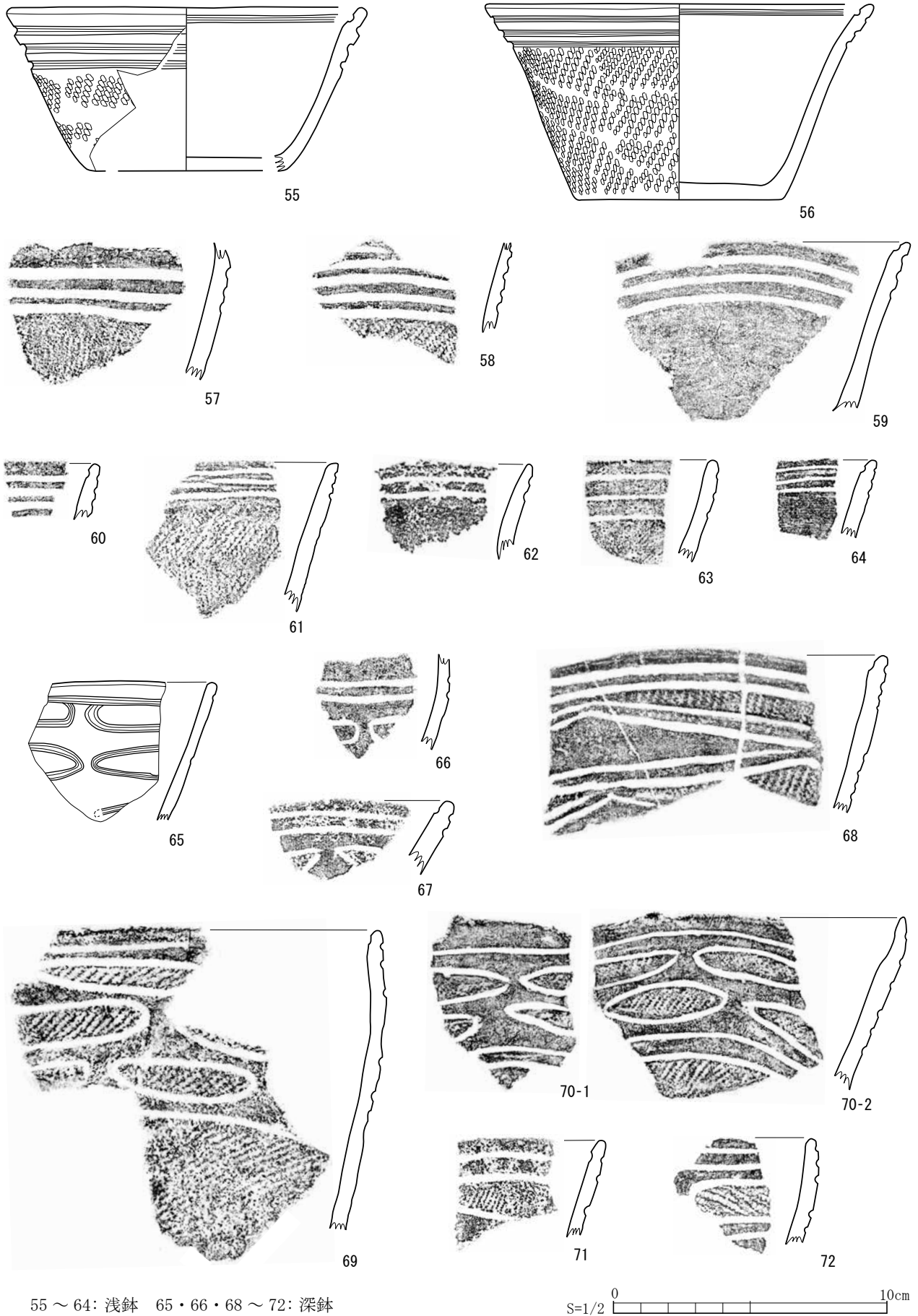
第4図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(2)



37 ~ 54: 浅鉢

0 10cm
S=1/2

第5図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(3)

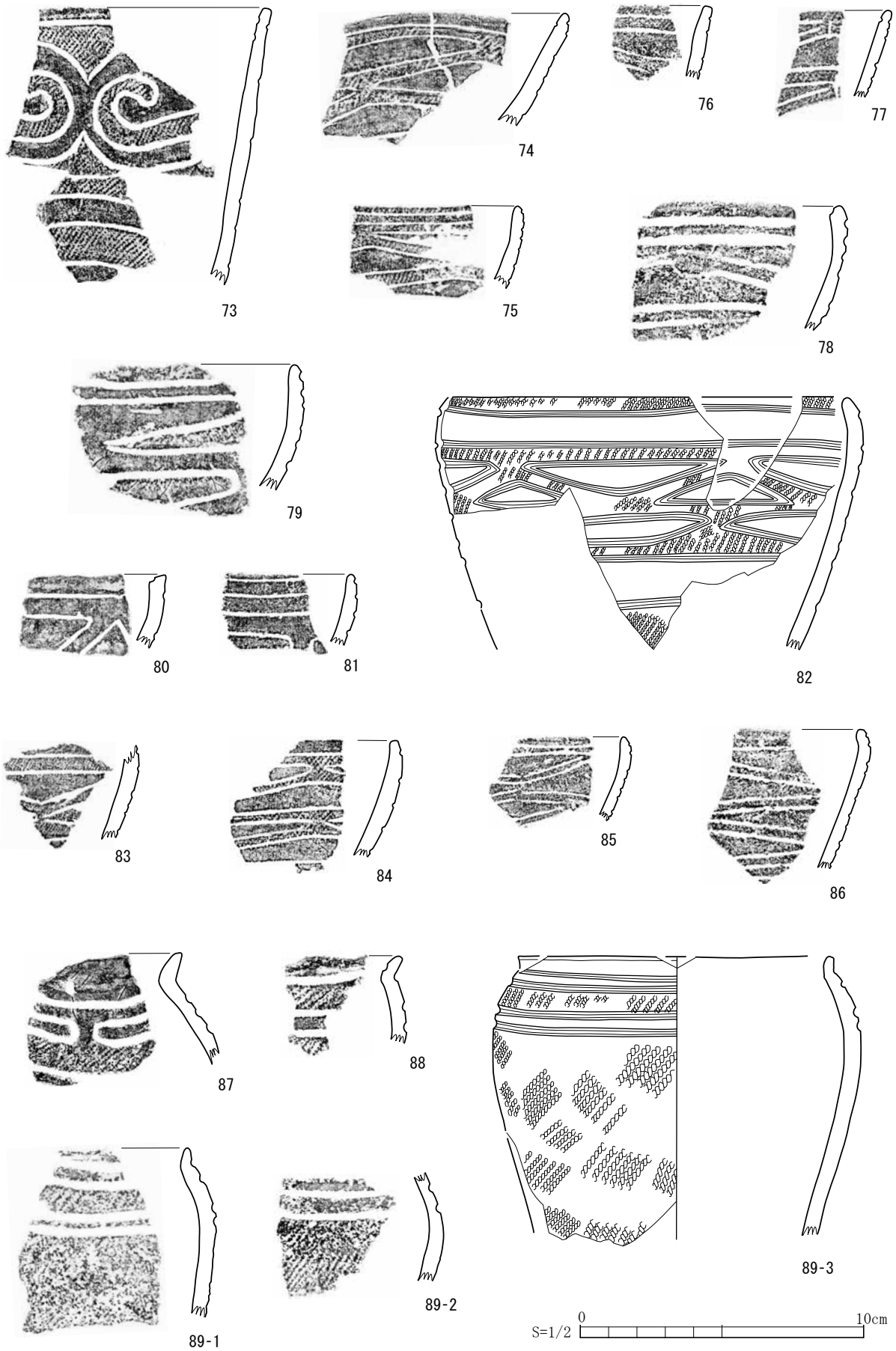


55 ~ 64: 浅鉢 65・66・68 ~ 72: 深鉢

S=1/2 0 10cm

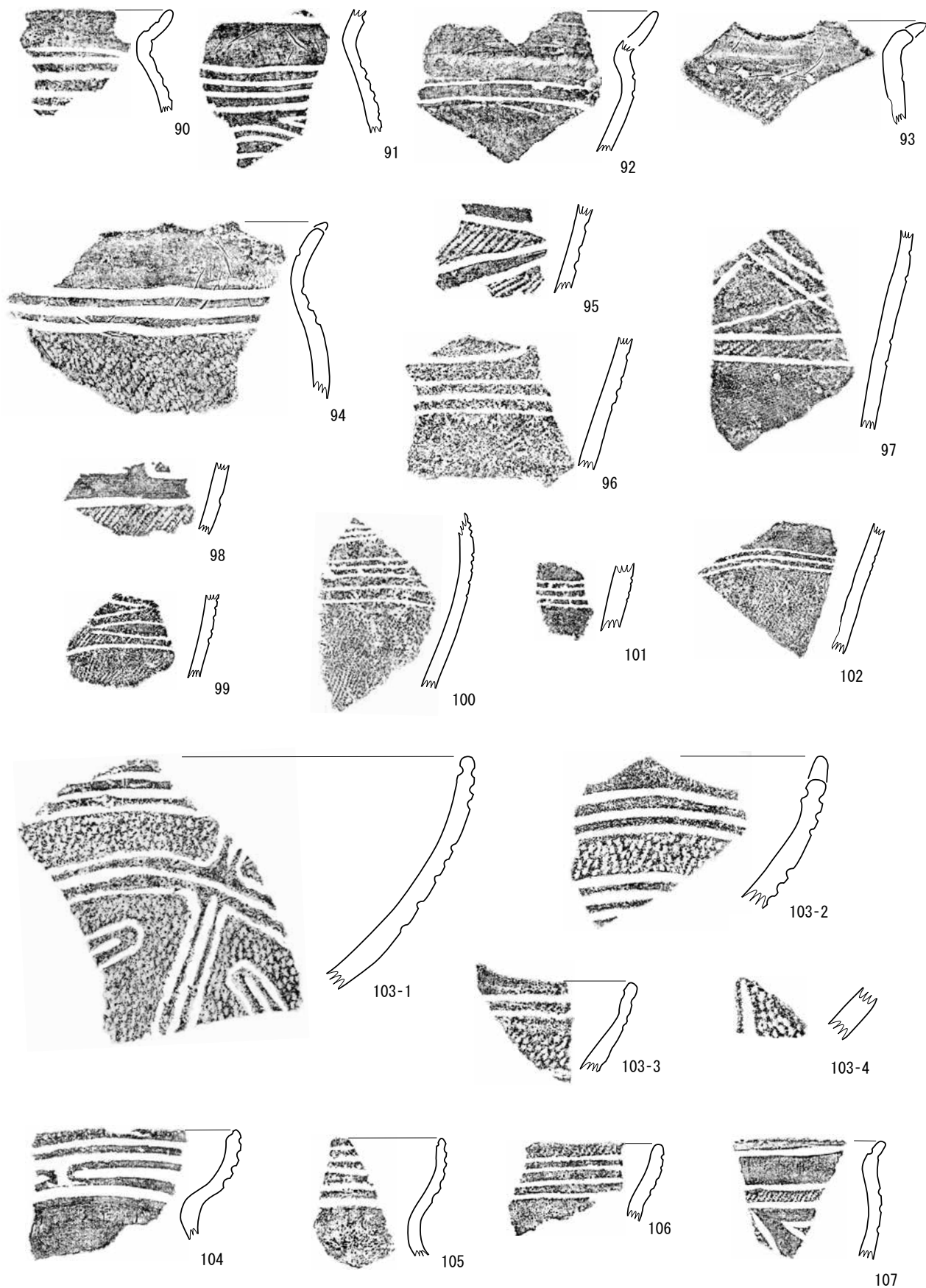
第6図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(4)

第6図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(4)



73・78～82・87～89: 深鉢 74～77・83～86: 浅鉢

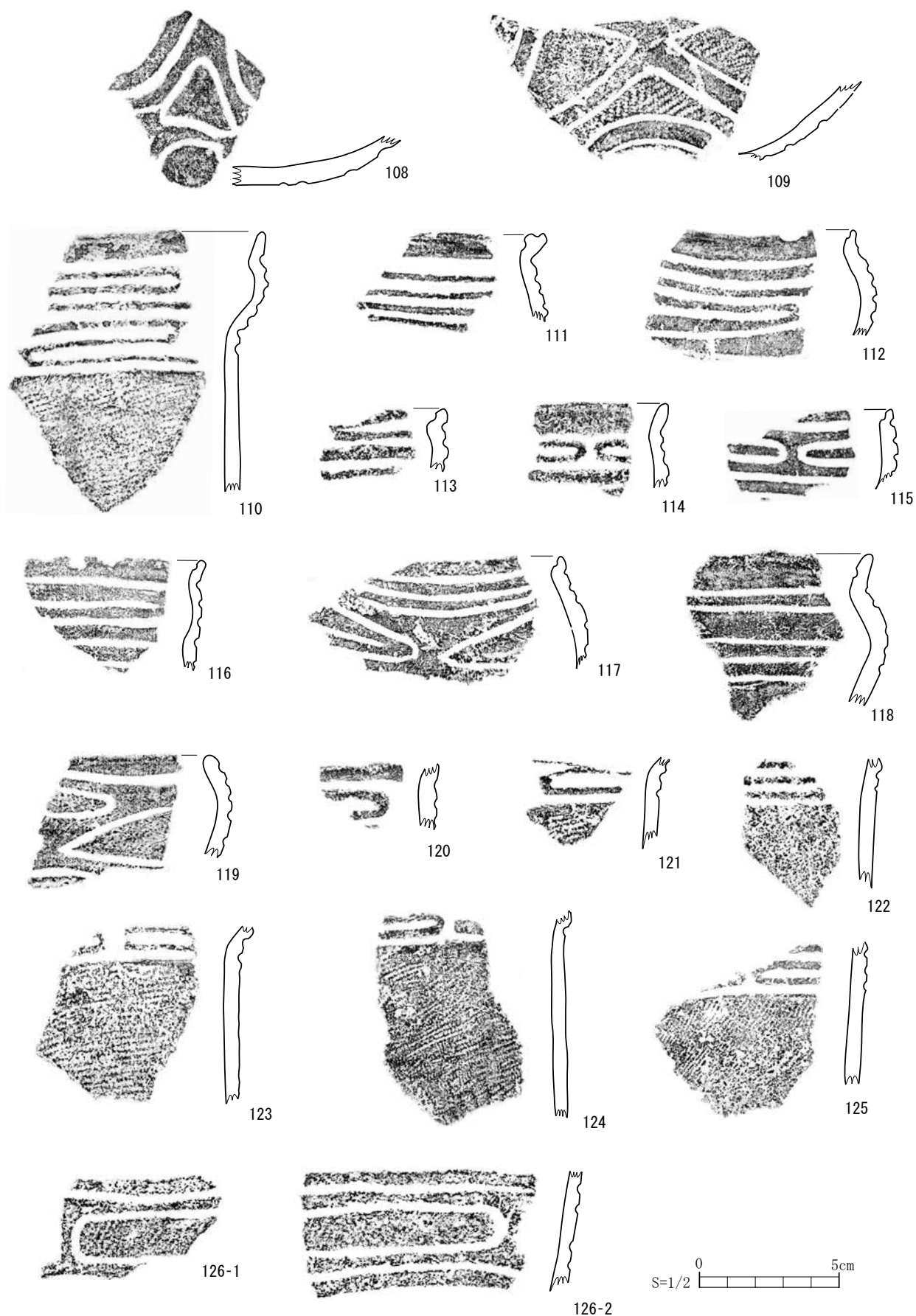
第7図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(5)



90・91・93～98・100・102・106: 深鉢 92・99: 浅鉢
 103～105・107: 丸底鉢

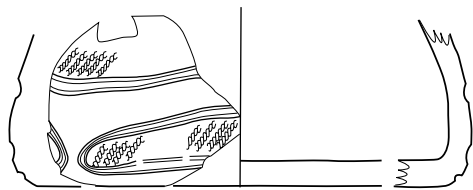
0 10cm
 S=1/2

第8図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(6)

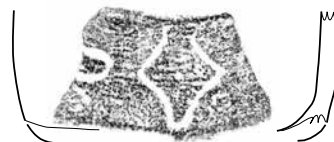


108・109: 丸底鉢 110～126: 筒形土器

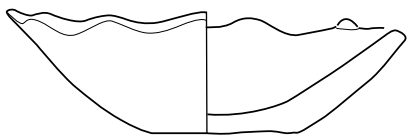
第9図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(7)



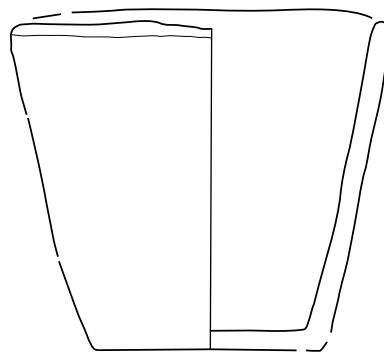
127



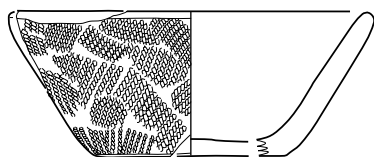
128



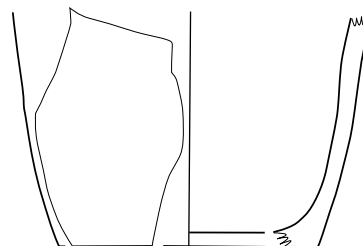
129



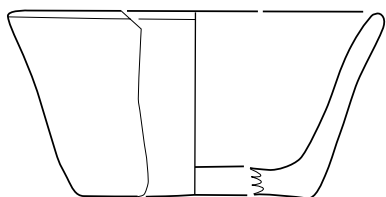
132



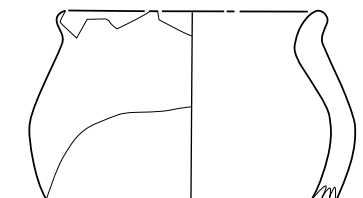
130



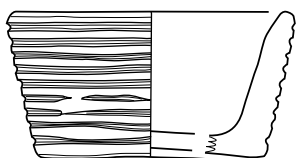
133



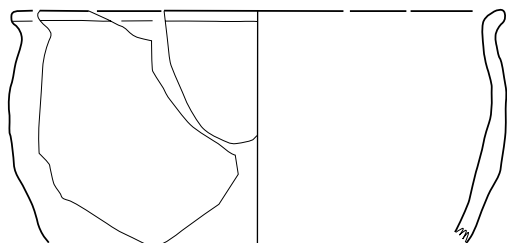
131



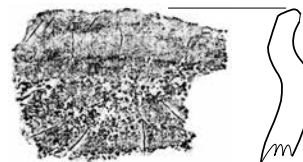
135



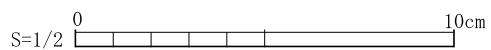
134



136

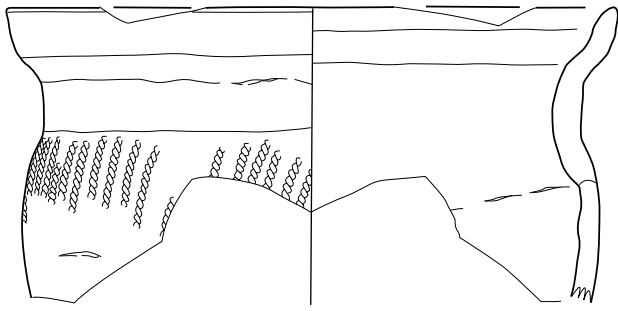


137

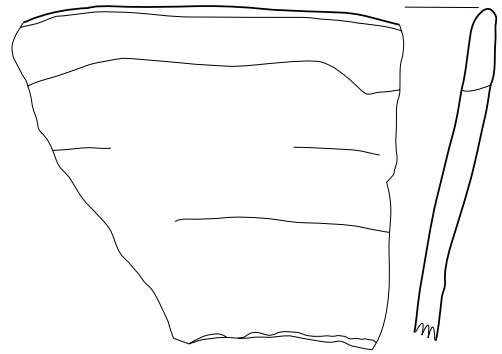


127・128: 瓢箪形土器 129～137: 小型土器

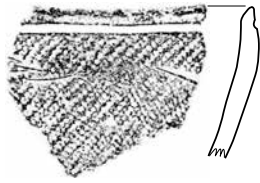
第10図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(8)



138



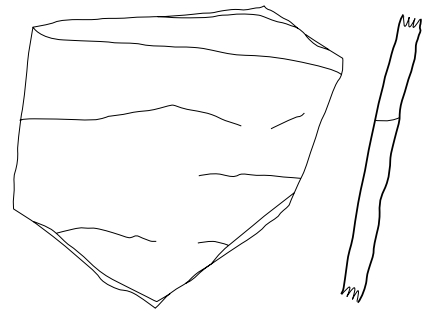
141-1



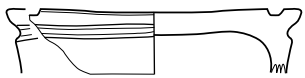
139



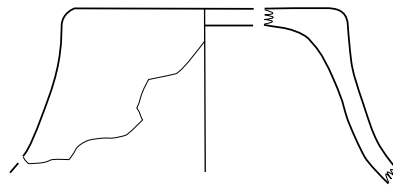
140



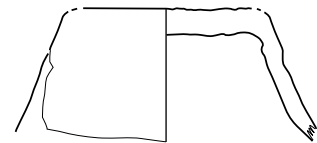
141-2



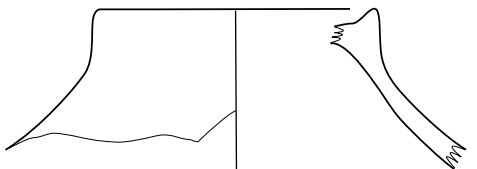
142



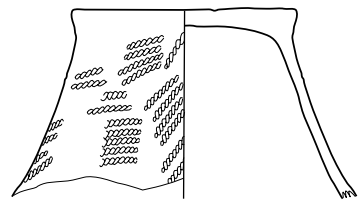
143



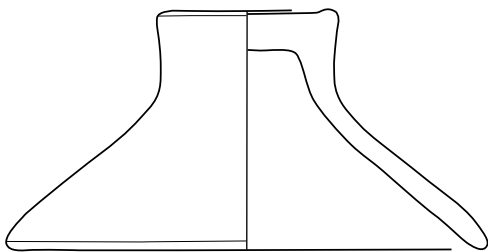
144



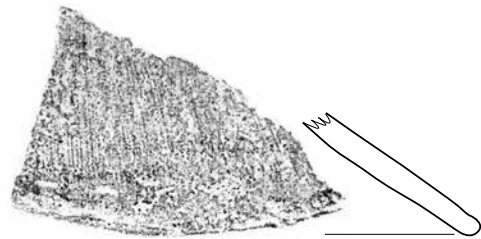
145



146

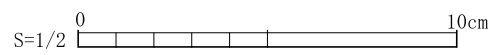


147

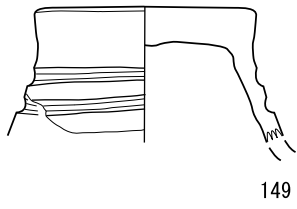


148

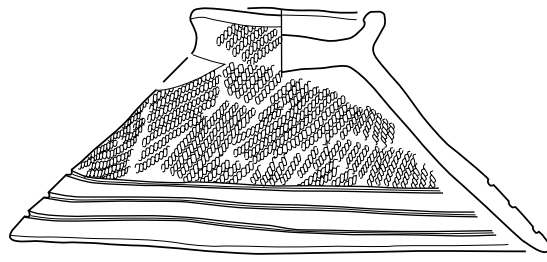
138 ~ 141: 深鉢 142 ~ 148: 蓋



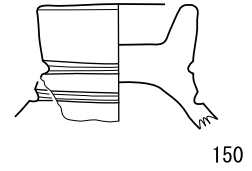
第 11 図 飯野坂遺跡弥生土器実測図 (9)



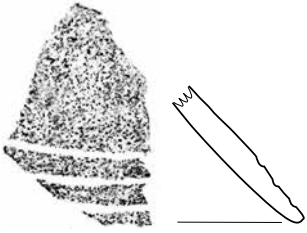
149



151



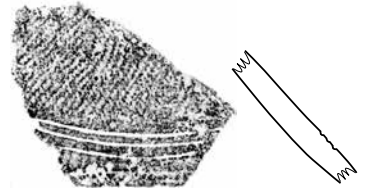
150



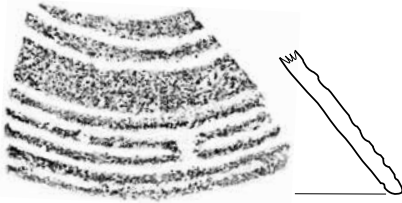
152



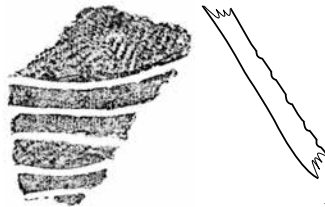
153



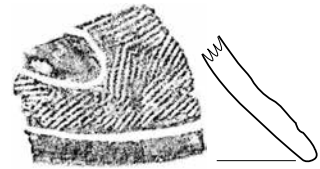
154



155



156



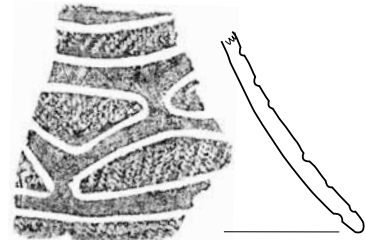
157



158



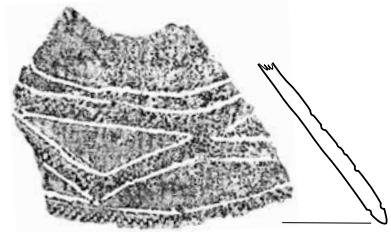
159-1



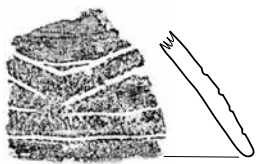
159-2



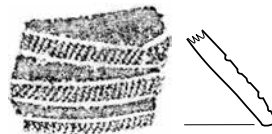
160



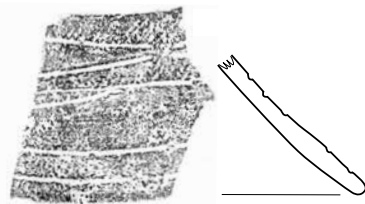
161



162

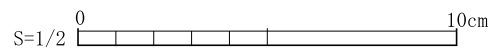


163



164

149 ~ 164: 蓋



第 12 図 飯野坂遺跡弥生土器実測図 (10)

第1表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(1)

番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
1	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部:縄文LR、ミガキ			(2.5)	山形突起	R3
2	弥生土器	高坏	口縁部	横位沈線文、ミガキ	ミガキ			(2.2)	山形突起	R5
3	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(1.9)	山形突起	R4
4	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文	口唇・口縁端部:沈線文			(1.8)	山形突起	R6
5	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(3.0)		R7
6	弥生土器	高坏	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(2.3)		R9
7	弥生土器	高坏	体~底部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(7.7)		R1
8	弥生土器	高坏	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(2.7)		R2
9	弥生土器	高坏	口縁~体部	磨消縄文、縄文LR、ミガキ	口唇・口縁端部:沈線文、ミガキ			(3.8)	山形突起	R19
10	弥生土器	高坏	口縁~体部	磨消縄文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.5)		R22
11	弥生土器	高坏	口縁~体部	磨消縄文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.7)	内面黒色化	R23
12	弥生土器	高坏	体部	磨消縄文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(4.4)		R21
13	弥生土器	高坏	底~脚部	平行沈線文、ミガキ	ケズリ			(2.0)		R28
14	弥生土器	高坏	底~脚部	平行沈線文				(1.8)		R30
15	弥生土器	高坏	底~脚部	沈線文、縄文LR				(3.0)		R29
16	弥生土器	高坏	底部	平行沈線文、ミガキ	ナデ			(1.7)		R32
17	弥生土器	高坏	底~脚部	平行沈線文、波状文?	ナデ			(2.6)		R31
18	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文、波状文、ミガキ	ナデ、ミガキ		(13.8)	(5.5)		R34
19	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文、波状文、縄文LR	ミガキ			(4.0)		R33
20	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文、波状文、ミガキ	ミガキ			(4.6)		R36
21	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文、波状文、ミガキ	ミガキ			(3.6)	スカシあり	R37
22	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文				(2.1)		R39
23	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文	ミガキ			(2.1)		R38
24	弥生土器	高坏	脚部	平行沈線文、波状文、ミガキ				(4.5)		R40
25	弥生土器	高坏	脚部	磨消半楕円文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(11.9)	(7.1)		R337
26	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(2.4)	山形突起	R42
27	弥生土器	高坏	口縁~体部	変形工字文	口縁端部:平行沈線文			(3.0)	内・外面沈線部に赤彩	R41
28	弥生土器	高坏	口縁部	変形工字文、ミガキ	口縁端部:平行沈線文			(2.0)	鉢の可能性もあり	R52
29	弥生土器	高坏	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(1.6)		R43
30	弥生土器	高坏	口縁~体部	磨消変形工字文、附加条縄文LR+Rミガキ	口縁端部:平行沈線文ミガキ			(7.3)	2個1対の山形突起	R44
31	弥生土器	高坏	口縁部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文			(1.9)	鉢の可能性もあり	R46
32	弥生土器	高坏	口縁~体部	平行沈線文、附加条縄文LR	ミガキ			(3.1)		R48
33	弥生土器	高坏	体部	磨消変形工字文 附加条縄文LR+R・R、ミガキ	ミガキ			(4.0)		R49
34	弥生土器	高坏	体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.3)		R45
35	弥生土器	高坏	脚部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(4.4)		R50
36	弥生土器	高坏	脚部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(6.4)		R54
37	弥生土器	鉢	体~底部	平行沈線文、波状文?、ミガキ	ミガキ		7.2	(3.8)	底部木葉痕	R161
38	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(3.3)		R56
39	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.6)		R57
40	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(6.8)		R55
41	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(4.6)		R11
42	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.2)		R12
43	弥生土器	鉢	体~底部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(5.3)		R61
44	弥生土器	鉢	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(3.7)	内面黒色化	R64
45	弥生土器	鉢	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(3.4)		R10
46	弥生土器	鉢	口縁部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(1.9)		R65
47	弥生土器	鉢	体部	変形工字文、ミガキ	ミガキ			(4.7)	内面黒色化	R63
48	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線間波状文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(7.7)	内面沈線部赤彩	R15
49	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線間波状文	口縁端部:沈線文、ミガキ			(3.9)		R18
50	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、波状文?ミガキ	ミガキ			(5.6)	脚部の可能性もあり	R13
51	弥生土器	鉢	口縁~体部	波状文、ミガキ	ミガキ			(5.8)		R62
52	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、波状文?ミガキ	ミガキ			(4.2)	高坏の可能性もあり	R17
53	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文	ミガキ			(3.5)		R60
54	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、縄文、ミガキ	ミガキ			(5.2)		R20
55	弥生土器	鉢	口縁~底部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ	(13.2)	(7.2)	6.0		R69
56	弥生土器	鉢	口縁~底部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ	14.2	7.6	7.2		R67
57	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(4.8)		R70

第2表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(2)

番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
58	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.2)		R71
59	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(6.1)	外面沈線部赤彩	R68
60	弥生土器	鉢	口縁部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(1.9)		R72
61	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、附加条縄文LR+R ミガキ	ミガキ			(5.5)		R74
62	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ			(2.9)		R73
63	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、縄文LR	不明			(3.7)		R76
64	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部:沈線文			(2.8)		R75
65	弥生土器	鉢	口縁~体部	楕円文	不明			(5.0)		R107
66	弥生土器	鉢	体部	工字文、ミガキ	ミガキ			(3.3)		R66
67	弥生土器	鉢	口縁~体部	三角文?、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(2.7)		R14
68	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(5.8)		R96
69	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消楕円文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(11.0)	縄文部赤彩	R97
70	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消楕円文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(6.4)	山形突起	R109
71	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消縄文、縄文、ミガキ	口縁端部:沈線文			(3.5)		R100
72	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消方形文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.8)		R99
73	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消渦文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:縄文、平行沈線文 ミガキ			(9.8)	双対渦文	R98
74	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.0)		R129
75	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.9)		R133
76	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文	ミガキ			(2.6)		R135
77	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文、ミガキ	口縁端部:沈線文			(3.1)	沈線部赤彩	R137
78	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線間波状文	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.4)		R58
79	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文・工字文、ミガキ	ミガキ			(4.5)		R108
80	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消三角文、縄文	口縁端部:沈線文、ミガキ			(2.6)		R106
81	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文、ミガキ	ミガキ			(2.5)		R138
82	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消三角文、縄文LR、ミガキ	ミガキ	(14.0)		(8.9)	縄文・沈線部赤彩	R128
83	弥生土器	鉢	体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.2)		R131
84	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(4.1)		R130
85	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消変形工字文、縄文、ミガキ	ミガキ			(3.0)		R136
86	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文	不明			(4.9)		R134
87	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.5)	縄文部赤彩	R104
88	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消半楕円文?、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(3.1)	波状口縁	R105
89	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ	(11.0)		(9.8)		R116
90	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文	口縁部:平行沈線文			(3.6)		R117
91	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、波状文?、ミガキ	ミガキ			(4.3)		R101
92	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ			(5.0)		R118
93	弥生土器	鉢	口縁~体部	口縁部:ミガキ、列点文 体部:縄文LR	口唇部:縄文LR ミガキ			(3.5)	山形突起	R145
94	弥生土器	鉢	口縁~体部	口縁部:ミガキ、平行沈線文 体部:縄文LR	口縁端部:沈線文 ミガキ			(6.3)	2個1対の山形突起	R144
95	弥生土器	鉢	体部	磨消三角文?、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.8)	縄文部赤彩	R121
96	弥生土器	鉢	体部	変形工字文?、平行沈線文 縄文LR	ミガキ			(4.7)		R119
97	弥生土器	鉢	体部	磨消三角文、附加条縄文	ミガキ			(7.0)	沈線部赤彩	R125
98	弥生土器	鉢	体部	磨消工字文?、ミガキ、 附加条縄文LR+R・R	ミガキ			(2.5)	縄文・沈線部赤彩	R120
99	弥生土器	鉢	体部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.0)		R139
100	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(6.3)		R142
101	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ			(2.3)		R140
102	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(4.4)		R141
103	弥生土器	鉢	口縁~体部	3条1単位沈線による方形文 区画内に刺突充填	口縁端部:沈線文			(8.4)	山形突起	R27
104	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(3.7)		R78
105	弥生土器	鉢	口縁部	工字文?	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.2)		R102
106	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ、縄文	不明			(2.8)		R115
107	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消三角文?、縄文LR、ミガキ	口縁端部:沈線文、ミガキ			(4.2)	縄文部赤彩	R132
108	弥生土器	鉢	体~底部	三角文、ミガキ、底面:円文	不明			(1.6)		R123
109	弥生土器	鉢	体~底部	磨消三角文、縄文LR、ミガキ 底面:円文	ミガキ			(2.8)		R122
110	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(9.3)		R79

第3表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(3)

番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
111	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口唇・口縁端部：沈線文 ミガキ			(3.2)		R85
112	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(3.8)		R88
113	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(2.3)		R86
114	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文	不明			(3.0)		R80
115	弥生土器	鉢	口縁~体部	工字文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(2.4)		R87
116	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(3.9)		R90
117	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(3.6)		R89
118	弥生土器	鉢	口縁~体部	平行沈線文、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(5.4)		R91
119	弥生土器	鉢	口縁~体部	磨消楕円文・三角文、縄文、ミガキ	不明			(3.7)		R95
120	弥生土器	鉢	体部	工字文、ミガキ	ミガキ			(2.4)		R81
121	弥生土器	鉢	体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.8)		R84
122	弥生土器	鉢	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ			(4.7)		R92
123	弥生土器	鉢	体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(6.2)		R93
124	弥生土器	鉢	体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(7.4)		R94
125	弥生土器	鉢	体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(5.1)	外面全体に赤彩	R59
126	弥生土器	鉢	体部	磨消方形文、縄文	ミガキ			(4.0)		R127
127	弥生土器	鉢	体~底部	磨消半楕円文、縄文	不明		(10.8)	(4.0)		R124
128	弥生土器	鉢	体~底部	菱形文、楕円文?	不明		(8.0)	(2.9)		R153
129	弥生土器	鉢	ほぼ完形	ミガキ	ミガキ	10.5	3.8	3.2	波状口縁	R157
130	弥生土器	鉢	口縁~底部	縄文LR	ミガキ	(9.8)	(5.0)	3.8	外面赤彩・煤状付着物、底部木葉痕	R151
131	弥生土器	鉢	口縁~底部	不明	不明	(10.0)	(6.2)	4.9		R152
132	弥生土器	鉢	ほぼ完形	外面・底面：ミガキ	ミガキ	10.0	3.0	8.7		R150
133	弥生土器	鉢	体~底部	ミガキ	ミガキ		(6.8)	(6.2)		R154
134	弥生土器	鉢	口縁~底部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ	(7.7)	(6.0)	3.8		R77
135	弥生土器	鉢	口縁~体部	ミガキ	ミガキ	(6.8)		(5.0)		R156
136	弥生土器	鉢	口縁~体部	ミガキ	ミガキ	(13.0)		(6.1)		R159
137	弥生土器	鉢	口縁~体部	ミガキ	ミガキ			(3.9)		R112
138	弥生土器	鉢	口縁~体部	体部：縄文LR	ミガキ	(16.2)		(7.7)		R146
139	弥生土器	鉢	口縁~体部	沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(4.0)		R158
140	弥生土器	鉢	口縁~体部	変形工字文	口縁端部：沈線文			(3.8)		R103
141	弥生土器	鉢	口縁~体部	ナデ、輪積み痕	ミガキ			(8.8)		R148
142	弥生土器	蓋	天井部	天井・体部：沈線文	ミガキ	天井(7.7)		(1.7)		R164
143	弥生土器	蓋	天井~体部	ミガキ	ミガキ	天井(7.0)		(4.3)	天井部木葉痕	R169
144	弥生土器	蓋	天井~体部	ミガキ	ミガキ	天井(5.0)		(3.1)	天井部木葉痕	R166
145	弥生土器	蓋	天井~体部	不明	不明	天井(7.4)		(3.7)		R168
146	弥生土器	蓋	天井~体部	縄文LR	ミガキ	天井(6.0)		(4.9)	天井部木葉痕、内面の一部に煤状付着物	R163
147	弥生土器	蓋	天井~口縁部	ミガキ	ミガキ	天井4.8 (12.4) 口径		6.3	天井部木葉痕	R167
148	弥生土器	蓋	体~口縁部	細かいハケメ	ミガキ			(3.1)	内面に煤状付着物	R183
149	弥生土器	蓋	天井~体部	平行沈線文	ミガキ	天井5.8		(3.8)	天井部木葉痕	R165
150	弥生土器	蓋	つまみ部	平行沈線文	不明	天井4.2		3.0	内面に煤状付着物	R162
151	弥生土器	蓋	ほぼ完形	平行沈線文、縄文LR、沈線部ミガキ	ミガキ	天井5.1 口径14.3		6.3	外面赤彩、内面全体に煤状付着物	R160
152	弥生土器	蓋	体~口縁部	平行沈線文	ミガキ			(3.6)		R180
153	弥生土器	蓋	体~口縁部	平行沈線文	ミガキ			(2.7)		R182
154	弥生土器	蓋	体~口縁部	平行沈線文、縄文LR、ミガキ	不明			(3.3)		R181
155	弥生土器	蓋	体~口縁部	工字文	沈線文			(3.7)	内面沈線文部赤彩・煤状付着物	R171
156	弥生土器	蓋	体部	磨消楕円文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.9)		R172
157	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消楕円文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(3.8)		R175
158	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消変形工字文、縄文	ミガキ			(2.7)	外面縄文部赤彩	R173
159	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消三角文、縄文LR、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(5.3)		R170-1
160	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消棘付三角文、縄文LR、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(5.5)	内面煤状付着物	R174
161	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	口縁端部：沈線文、ミガキ			(4.2)	内面口縁部煤状付着物	R179
162	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消変形工字文、縄文、ミガキ	ミガキ			(3.3)	内面口縁部煤状付着物	R177
163	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(2.5)	内面口縁部煤状付着物	R178
164	弥生土器	蓋	体~口縁部	磨消変形工字文、縄文、ミガキ	ミガキ			(3.7)	内面口縁部煤状付着物	R176

名取市歴史民俗資料館年報 — 令和4年度 —

発行：名取市歴史民俗資料館
〒981-1224
宮城県名取市増田一丁目7-37
TEL022-724-7935/Fax022-724-7936
URL：<https://natori-shiryokan.jp/>
発行日：令和5年11月30日

印刷：株式会社ペナントコーポレーション
〒981-1236
宮城県名取市愛島小豆島字末無窪71-6